

## 刑 法

中山研一著

## 刑 法 入 門 〔第3版〕

A 5判並製194頁／1800円

本書は専門に入る前に必要な最低限度の知識を整理し、専門的レベルへの橋渡しを試みた全く新しい入門書。「刑法」とはどんなものか、どのように変わってきたか、誰が取り扱うのか、どんな問題とかかわるのか、「犯罪」はどんな状況にあるのか、どんな場合に成立するのかなど、易しくかつ興味深く解説する。 [1884-0・10]

中山研一著／松宮孝明補訂

## 新版 口述刑法各論 〔補訂3版〕

A5判上製406頁／3200円

刑法が堅苦しく難しいという学生諸君の先入観は、高度に複雑化した教科書の記述にある。著者の40年以上にわたるこのような講義経験から「やさしい解説」を試みた生の講義録。より高度な研究への橋渡しとなるべき教科書。法学部1年生・ロースクール未履修者必携。 [5122-9・14]

中山研一著

## 新版 概 説 刑 法 I

A 5判並製282頁／2800円

旧版「概説刑法I」を全面的に書き改めたもの。問題点をコンパクトに整理し、しかも、自説をより論争的な形でまとめている。 [1901-4・11]

大谷實著

## 刑法講義総論 〔新版第5版〕

A5判上製638頁／4000円

法学部の学生、司法試験受験生の基本書として定番の書。大谷刑法学の集大成。2009年の第4版刊行後の学説の動向に対応。基本書として欠かせない新しい判例を網羅的に取り上げ、その意義を明らかにする。「社会秩序維持主義」を基調とする定評ある基本書。 [5276-9・19]

大谷實著

## 刑法講義各論 〔新版第5版〕

A5判上製732頁／4000円

法学部の学生、司法試験受験生の基本書として定番の書。大谷刑法学の集大成。法学部の学生、司法試験受験生の基本書として定番となっている。 [5290-5・19]

大谷實著

## 刑 法 総 論 〔第5版〕

A 5判上製352頁／2900円

第5版では、新しい判例と共に共謀罪の意義及び体系的な位置づけについての解説を加えた。学部学生として必要な知識と考え方を過不足なく網羅した最新の教科書。 [5244-8・18]

大谷實著

## 刑 法 各 論 〔第5版〕

A5判上製464頁／3200円

第5版では、性犯罪規定の改正など大きな変化に対応。全体をコンパクトにまとめ、重要な基本的知識および理論を一気に読みきれ、各論の全てを習得できるように解説。 [5245-5・18]

松原芳博著

## 刑法概説〔第2版〕

A5判並製248頁／2600円

刑法総論、各論をこの1冊で学ぶことができる！私見に偏ることなく、バランスよく平均的な解説を試みているため、法学部生向けの初級テキストとして最適。

第2版では、自由刑の一本化に関する令和4年の刑法改正に対応するほか、新判例を取り込むなど最新の情報に依拠している。〔5376-6・22〕

山中敬一・山中純子著

## 刑法概説Ⅰ 総論〔第2版〕

A5判上製316頁／2700円

これから刑法を学ぼうとする人に、刑法総論、各論について、その概観をあたえ、しかも刑法学に興味が薄くように重要論点や最新の問題点について分かりやすく叙述したもの。刑法を一通り学んだ学生が試験前に知識を呼び起こし、論点をまとめる際にも有益。〔5358-2・22〕

山中敬一・山中純子著

## 刑法概説Ⅱ 各論〔第2版〕

A5判上製342頁／3000円

14年ぶりの改訂。これから刑法を学ぼうとする人にその概観を与え、しかも刑法学に興味薄くように重要論点や最新の問題点を分かりやすく叙述する。論点をまとめる際にも有益。〔5388-9・23〕

山中敬一著

## 刑法総論〔第3版〕

A5判上製1224頁／7000円

複雑・多様化した現代刑法理論に視座と展望を提供し、理論的に整合した問題解決のための解釈論を展開する本格的体系書。初版の分冊を合本し、最新の判例・学説を組み入れたうえで、理論の機能的な体系化を図って解釈論に道標を与える。刑法理論をより深く理解しようとする人のために。〔5156-4・15〕

山中敬一著

## 刑法各論〔第3版〕

A5判上製944頁／7000円

各犯罪類型の内容と限界を明らかにし、問題ごとの機能的体系化が図られる。最新の立法と判例・学説を体系化し、新たな理論をも提唱する。〔5166-3・15〕

山中敬一著

## ロースクール講義 刑法総論

A5判上製498頁／3300円

法科大学院の未修者のための刑法総論の教科書。28講に分けて総論の重要テーマを分かりやすく解説した。プロブレムメソッドを採用し設例を用いて問題の所在を明らかにし、最新の判例にも言及する。法学部の学生で法科大学院の既修者コースを目指す者が刑法総論をマスターするにも最適のテキストである。〔1684-7・05〕

浅田和茂著

## 刑法総論〔第2版〕

A5判上製598頁／3700円

刑法の基本原則を堅持しつつ、結果無価値論を徹底した、注目のテキスト。刑法理論を解かりやすく解説し、判例・学説の批判的検討から、「なるほどそうか」と刑法が見えてくる。LSの学生にも最良の書。〔5273-8・19〕

浅田和茂著

## 刑法各論

A5判上製634頁／3700円

旧刑法から最新の法改正までを視野に入れ、判例・学説を批判的に検討した、注目のテキスト。刑法総論とセットで日本刑法学の到達点が見えてくる。待望の刑法各論。〔5311-7・20〕

曾根威彦著	刑法に関する理論体系的思考を踏まえたうえで、論理的に整合性のある形で解釈論上の個別問題の具体的解決を図る。刑法の特色・性質を根本に遡って原理的観点から論述した本格的体系書。
刑 法 原 論	
A5判上製698頁／6500円	[5180-9・16]
曾根威彦著 プライマリ法学双書	刑法の基礎、刑法の基本原則、犯罪の実質、犯罪の形成、憲法・民法と刑法との関係など刑法学上の基本的なテーマについて、総論・各論の垣根を取り払って論じることで、刑法という法律の性格、刑法学の学問としての内容を知ることができる。
刑 法 学 の 基 礎	
A5判上製272頁／2700円	[1560-3・01]
曾根威彦著	刑法総論上重要な30項目について、最近の判例・学説の動向を踏まえ、今日の刑法学の到達点を示すと共に、論争的手法を取り入れ、著者の立場から他説に対する批判的検討を試みている。法科大学院の未修者の使用にも配慮して、今回、刑法の基礎に関わる3項目が追加された。
刑法の重要問題〔総論〕〔第2版〕	
A5判上製412頁／3700円	[1680-4・05]
曾根威彦著	刑法を一通り学んだ者が深く刑法学を理解するために、刑法各論上の重要問題を30項目取り上げ、それぞれにつき立ち入った考察を加える。最近の判例・学説の動向を踏まえて、今日の刑法学の到達点を示すと共に、著者の立場から他説に対する批判的検討が試みられている。
刑法の重要問題〔各論〕〔第2版〕	
A5判上製412頁／3700円	[1710-X・06]
曾根威彦・松原芳博編	刑法総論上の特に重要な16項目を取り上げて、最新の判例・学説の動向を踏まえつつ、教科書よりも立ち入った分析・検討を加えた解説書。教科書的な概説は最小限にとどめ、理論的にも実務的にも重要な対立点を集中的に論じることにより、刑法理論の重要性と面白さを伝えている。
重点課題刑法総論	
A5判上製276頁／2700円	[1794-2・08]
曾根威彦・松原芳博編	刑法各論上の特に重要な16項目を取り上げて、最新の判例・学説の動向を踏まえつつ、教科書よりも立ち入った分析・検討を加えた解説書。教科書的な概説は最小限にとどめ、理論的にも実務的にも重要な対立点を集中的に論じることにより、刑法理論の重要性と面白さを伝えている。
重点課題刑法各論	
A5判上製286頁／2700円	[1795-9・08]
岡野光雄著	初版以降の刑法改正に対応し、最新の学説・判例を網羅。さらに説明の補充や新しい項目も追加されている。平易かつ高水準の教科書で法学部のみならずロースクールの学生にも最適。
刑法要説総論〔第2版〕	
A5判上製408頁／3300円	[1842-0・09]
岡野光雄著	近時における数次の刑法一部改正に対処するとともに、可能な限り最新の学説・判例を網羅した最新版。平易かつ高水準の叙述は初学者にとっても有益。
刑法要説各論〔第5版〕	
A5判上製420頁／3300円	[1822-2・09]

川端博著

刑

法

刑法(総論・各論)のすべてを分かりやすく一冊にまとめて説き明かす。「刑法はむずかしい」と思い込んでいる法学部の学生やロースクール生および裁判員になる可能性のある市民のためのガイドブック。

A5判上製428頁／3500円

〔5102-1・14〕

川端博著

刑法総論講義〔第3版〕

本書は、判例・通説の立場である二元的人的不法論(行為無価値論)をベースに構築した著者の刑法理論の立場から、最近の刑法改正と判例・通説の発展に即応して改訂したもので、さらに新論点の叙述を補充して内容を充実させている。刑事立法の時代における刑法総論の本格的体系書の待望の最新版である。〔1970-0・13〕

A 5 判上製798頁／4400円

川端博著

刑法各論講義〔第2版〕

本書は、刑事立法の時代における本格的体系書『刑法総論講義』の姉妹版であり、相次ぐ法改正と新判例に即応して、通説・判例の立場である二元的人的不法論(行為無価値論)の見地から犯罪類型の特質を明らかにした上で解釈論の重要問題を理論的に分析し体系的に講述する刑法各論の基本書の新版である。〔1868-0・10〕

A5判上製836頁／4400円

川端博著

集中講義刑法総論〔第2版〕

刑法総論の基本構造にかかわる重要問題を精選し、具体的な「設例」および「論点と考え方」をあげて、その問題性のイメージをあざやかに提示したうえで、それを説得的に叙述する手順を教えるユニークな書。本書は、基本書を正しく理解するための有益な参考書でもある。〔1438-0・97〕

A 5 判上製486頁／3700円

川端博著

集中講義刑法各論

刑法各論の重要問題について事例をあげて分析し、根本にさかのぼって説き明かすことによって、退屈だと思われてきた刑法各論の学習に興味を起させせる刺激的な参考書。口語体で分かりやすく叙述されているので、まるで著者の講義に参加しているような雰囲気で一気読み通すことができるであろう。〔1507-7・99〕

A 5 判上製494頁／3700円

川端博著

刑法講話 I 総論

法科大学院未修者、法学部学生、裁判員制度導入を控えて一般社会人も対象に刑法総論を分かりやすく述べる。刑法体系を明らかにして刑法理論の全体像をしめすことで、刑法を深く理解できるように務めている。相互参照の指示、キーワードのゴチ表記、難読文字にルビ、詳しい索引などの工夫がされている。〔1685-5・05〕

A5判並製388頁／2700円

川端博著

刑法講話 II 各論

刑法各論のテキスト内、次々と犯罪類型の内容を細かく説明するので、読む側は退屈させられてしまう。にもかかわらず法科大学院の法学未修者・法学部学生・裁判員となる可能性のある一般市民にとっては、刑法各論の知識は必須である。そこで本書は、平易な語り口で興味深く刑法各論を縦横に説き明かす。〔1658-8・04〕

A5判並製382頁／2700円

川端博著

疑問からはじまる刑法 I 総論

本書は、難解とされる刑法総論を学ぶ際に生ずる素朴な疑問に答えつつ重要論点を明快に解説し刑法総論を深く理解してマスターできる有益な参考書である。択一式問題を出題し、解答のためのヒントを提示したうえで正解に至るプロセスを解説することによって、自ら実力を練成できるように工夫されている。〔1731-2・06〕

A 5 判並製342頁／2700円

川端博著	素朴な疑問に答えつつ重要論点を明快に解説し刑法各論を深く理解してマスターできる有益な参考書。択一式問題を出題し、解答のためのヒントを提示したうえで正解に至るプロセスを解説。
疑問からはじまる刑法Ⅱ各論	
A5判並製304頁／2700円	[1786-7・07]
川端博対談	「刑事立法の時代」の幕明けを迎えた今、刑法理論は激変する時代の変化にどのように対応すべきか？ 本書は、この問題意識から重要テーマについて対談を通して「刑法理論の現状と課題」を明らかにする。各テーマに造詣の深い刑法学者をゲストに招いて本音を披瀝していただいたので読み物としても面白い。
現代刑法理論の現状と課題	
A5判並製396頁／2900円	[1694-4・05]
齊藤信宰著	刑法を解釈するにあたって、学説を整理しておくことは重要である。学説の争いは以前のように激しくはない。しかし、刑法の解釈にとって、学説の違いを考えないわけにはいかないであろう。本書は、学説による視点の違いを示しつつ、どのように解釈するのが適切かということを追及した。
新版 刑法講義〔総論〕	
A5判上製610頁／4200円	[1758-4・07]
齊藤信宰著	本書は、各論分野の条文をできる限り分り易く解説するとともに、刑法の考え方に対する一つの指針を示している。本書によって、刑法の奥の深さを楽しみながら理解することができよう。
新版 刑法講義〔各論〕	
A5判上製626頁／4200円	[1759-1・07]
萩原滋著	大学の刑法総論の講義のための教科書。刑法改正に対応した改訂版(2009年現在)。難解な刑法学説が初学者のために平易かつ簡潔に解説されている。学習効果を高めるため図表を多用し、重要判例には事実関係と判旨が詳しく記述されている。
刑法概要〔総論〕〔第3版〕	
A5判並製266頁／2500円	[5134-2・14]
萩原滋著	大学の刑法各論の講義のための教科書。2009年までの刑法一部改正に対応。簡潔で平易な解説には定評がある。学習効果を高めるため図表を多用し、重要判例には事実関係と判旨を詳しく記述。
刑法概要〔各論〕〔第4版〕	
A5判並製280頁／2600円	[5135-9・14]
鈴木茂嗣著 法学叢書4	犯罪の成立要件を純粋に検討する犯罪実体論と、犯罪成立要件事実の合理的認定を論じる犯罪認定論とを峻別。犯罪の性質とその認定の関係を明らかにして、実体刑法と訴訟法、また刑法理論と実践の架橋を目指す。刑罰論が追加され、犯罪論から刑罰論まで一貫した評価構造論の下に、責任主義が貫徹される。
刑法総論〔第2版〕	
A5判上製358頁／3500円	[1912-0・11]
松宮孝明著	刑法総論は、「行為無価値」「結果無価値」といった抽象論からではなく、妥当な結論から帰納されるべきものである。本書は、「客観主義」を導きの糸として、結論から体系を構築する本物の刑法学を展開する。
刑法総論講義〔第5版補訂版〕	
A5判上製420頁／3000円	[5251-6・18]

松宮孝明著

## 刑法各論講義〔第5版〕

A 5 判上製558頁／3500円

刑法各論の勉強は、典型例から始めて限界事例を知ることである。本書は、この各論学習の鉄則に則り、現行法の制定理由を踏まえて各論解釈を展開。体系的思考と問題的思考の融合をはかり日本刑法学の到達点を示す。平成29年の性犯罪規定の改正などに対応。

〔5252-3・18〕

佐久間修著

## 刑法総論

A 5 判上製516頁／3500円

旧版「刑法講義（総論）」を横組にしたうえで改訂。犯罪論の基本構造や刑罰の本質論を、正確かつ平易に説明する。

改訂にあたっては、叙述の仕方を工夫し、また、各種の論争で背景となる事情も含めて、最新の判例のも言及しながら、具体的素材を用いて解説する。〔1844-4・09〕

佐久間修著

## 刑法各論〔第2版〕

A 5 判上製512頁／3500円

平成23年改正に完全対応。通説である行為無価値論の立場から、主要な学説・判例をやさしく、丁寧に解説する。法学部とロースクールの学生に向け、現代の複雑な犯罪論を分かりやすく整理した概説書。

〔1955-7・12〕

佐久間修著

## 刑法総論の基礎と応用

条文・学説・判例をつなぐ

A 5 判上製410頁／3500円

刑法総論の全体像を効率よく理解するための素材として、実例となるべき具体的判例を織り込んで、重要テーマについて展開。基本的な学説・判例をおさえつつ、ハイレベルな応用問題を用意する。

〔5160-1・15〕

高橋則夫著

## 刑法総論〔第5版〕

A 5 判上製676頁／4500円

行為規範・制裁規範の枠組みから犯罪論と刑罰論を展開する、刑法総論の本格的体系書である。刑法の基礎理論から解釈論的帰結を導く道筋が明らかにされていると同時に、判例・裁判例を豊富に掲載することによって、規範と事実の架橋が示される。LS生・学部生にとって必読の書といえるだろう。〔5373-5・22〕

高橋則夫著

## 刑法各論〔第4版〕

A 5 判上製816頁／5000円

行為規範・制裁規範の枠組みから刑罰法規の解釈を展開し、豊富な判例・裁判例を素材に各犯罪の成立要件等を分析する。前者『刑法総論』と同様、事実を詳細に掲載し、規範と事実の架橋を試みる。各犯罪類型を具体的・立体的に理解できる体系書として、司法試験受験生・学部学生必読の書である。〔5374-2・22〕

立石二六著

## 刑法総論〔第4版〕

A5判上製438頁／4000円

本書の特色は、構成要件論、故意論、錯誤論、共犯論、等、理論上の重要問題に相当の紙幅を割きつつも、刑法総論の全貌を簡明銘に叙述した点にある。学説・判例も丁寧に整理されており、初学者にも上級者にも適応しうる好個の教科書である。

〔5138-0・15〕

立石二六編著

## 刑法事例30講

A 5 判並製302頁／2800円

一冊で刑法の代表的問題を習得できるよう配慮した。主に法学部の初学者を対象として、事例を分かりやすく解説することで理解を助ける演習書。

〔1979-3・13〕

日高義博著	刑法総論の体系的な理論構成と論理的整合性のある事案解決に向けて考え抜く力を身につけるため、「考えながら読み、読みながら考える」ことを実践する基本書。
刑法総論〔第2版〕	
A 5判上製628頁／4000円	[5362-9・22]
日高義博著	法解釈の華・刑法各論。実務と理論の架橋を意識し、刑法理論の体系的整合性を見据えた刑法各論を展開する。刑法総論と同様、「考えながら読み、読みながら考える」ことを実践する基本書。
刑法各論	
A 5判上製792頁／4000円	[5308-7・20]
関哲夫著	刑法総論の講義用として様々な工夫をこらし、1回の講義で完結するよう40の重要項目を選定して犯罪行為者・犯罪行為及び刑罰論について基礎理論・解釈論を口語表現で解説する。
講義 刑法総論〔第2版〕	
A 5判並製592頁／4500円	[5253-0・18]
関哲夫著	刑法各論の講義用として様々な工夫をこらし、それぞれ1回の講義で完結するよう43の重要項目を選定した。要件的思考法に基づいて犯罪を解説しつつ法律要件論を実践し、口語で解説する基本書。
講義 刑法各論	
A 5判並製734頁／4900円	[5227-1・17]
伊藤亮吉著	刑法総論を初めて学習する法学部生・法科大学院生を対象として、判例・学説の修得を基本としつつ、多くの図表を取り入れ、難解な法律学を講義形式でわかりやすく解説するテキスト。
刑法総論入門講義	
A 5判並製492頁／4000円	[5370-4・22]
伊藤亮吉著	刑法各論を初めて学習する法学部生・法科大学院生を対象として、判例・学説の修得を基本としつつ特別刑法にも言及し、難解な法律学を講義形式でわかりやすく解説するテキスト。
刑法各論入門講義	
A 5判並製552頁／4000円	[5356-8・22]
高橋直哉著	予習→授業→復習という流れを意識して、著者がロースクールで行っている司法試験等の試験対策に役立つ授業を、出来るだけリアルティを保ちながら再現する。
刑法の授業 [上巻]	
A 5判並製298頁／3000円	[5348-3・22]
高橋直哉著	
刑法の授業 [下巻]	
A 5判並製292頁／3000円	[5349-0・22]

前田雅英著

## 刑法入門講義

—新しい刑法の世界—

461並製286頁／1800円

戦後日本を俯瞰すると、刑事法も大きな転換点をむかえているように思われる(はしがきより)。著者はこのような変化の方向性を大変好評を得ている教科書や論文のなかで論述しているが、本書は、この考え方をより明快に解説し、多くの法律を学ぶ方々を対象に講演した原稿をもとにまとめたものである。〔1544-1・00〕

山口 厚著

## 基本判例に学ぶ刑法総論

A 5判並製316頁／2500円

判例を学ぶには当該事件の具体的事案との関係でその内容を理解するとともに、さらにその判断の内容を理論的に適切に位置づけ、理論との関連性を意識しながら学修することが大切である。本書は刑法総論の基本判例を素材に、その内容を理論的に位置づけながら、それを通じて刑法総論を学ぼうとするもの。〔1880-2・10〕

山口 厚著

## 基本判例に学ぶ刑法各論

A 5判並製340頁／2500円

法律学の学修において判例を学ぶ重要性はいうまでもない。個別の犯罪類型に関する刑法各論の解釈論は、抽象論としてではなく、具体的な事案に当てはめられた形で学ぶ必要があり、また、判例に示された事実の把握、法的論理をたどることを通じて、法的思考力の涵養も可能となろう。〔1917-5・11〕

山口厚編著

## クローズアップ刑法総論

A 5判上製266頁／2800円

刑法総論の重要問題を、執筆者間での討議を踏まえ、掘り下げた検討を加えた論文集。討議の概要も掲載し、執筆者間で何が問題とされたかを示す。扱うテーマは、相当因果関係／不真正不作為犯／管理・監督過失における正犯性、信頼の原則、作為義務／被害者による危険引受／未遂犯／共犯論の課題〔1636-7・03〕

山口厚編著

## クローズアップ刑法各論

A 5判上製366頁／3500円

同書総論に続く共同研究プロジェクト。扱うテーマは、法益侵害と法益主体の意思／遺棄罪における生命保護の理論的構造／司法に対する罪／盗撮画像公表行為と名誉毀損罪の保護法益／財物罪における所有権保護と所有権侵害／文書の名義人／対向的取引と背任罪の共同正犯。〔1784-3・07〕

松原芳博編

## 刑法の判例〔総論〕

A 5判上製326頁／2800円

厳選された刑法総論の最重要判例について、判例法理を抽出し、その意義・射程を解明しつつ、当該事案の適正な解決への筋道を示した平易で高水準な解説書。新司法試験にも対応できるよう事実と理論の双方にバランスよく目配りした判例解説として、法科大学院・法学部の演習教材、参考書、独習書に最適。〔1919-9・11〕

松原芳博編

## 刑法の判例〔各論〕

A 5判上製302頁／2800円

厳選された刑法各論の最重要判例について、判例法理を抽出し、その意義・射程を解明しつつ、当該事案の適正な解決への筋道を示した平易で高水準な解説書。新司法試験にも対応できるよう事実と理論の双方にバランスよく目配りした判例解説として、法科大学院・法学部の演習教材、参考書、独習書に最適。〔1920-5・11〕

松原芳博編著

## 続・刑法の判例〔総論〕

A 5判上製262頁／2800円

『刑法の判例〔総論〕』『同〔各論〕』の続編。近時の重要判例を厳選し、比較的詳細な解説・論評を加えた解説書。前著と併せて利用すれば、ほとんどの重要論点に関する判例を網羅できる。法学部生、法科大学院生の教材として最適。〔5379-7・22〕



松原芳博編著

## 続・刑法の判例〔各論〕

A5判上製288頁／2800円

『刑法の判例〔総論〕』『同〔各論〕』の続編。近時の重要判例を厳選し、比較的詳細な解説・論評を加えた解説書。前者と併せて利用すれば、ほとんどの重要論点に関する判例を網羅できる。法学部生、法科大学院生の教材として最適。

〔5380-3・22〕

反町義昭著

## 司法試験体系的問題解析 刑法

B5判並製338頁／3500円

過去問で繰り返し問われている刑法の重要論点を「体系順」に並べ替え、重要判例・出題趣旨等の分析を踏まえて、論述するにあたって把握しておくべきポイントを解説する実践的試み。

〔5241-7・18〕

奥村正雄・松原久利・十河太朗・川崎友巳著

## 判例教材刑法Ⅰ 総論

B5判並製512頁／4500円

刑法の理解を深めるには、「生きた法」である判例を学ぶ必要がある。個々の争点について合理的解決を導くため、判例がどのような法理を展開しているか。1審、2審、最高裁の結論の違いは事実認定の相違、それとも法理の差によるのか。判決理由を詳細に掲げた本書を熟読し、判例理論の面白さを学ぼう。

〔1971-7・13〕

伊東研祐編著

## はじめての刑法

B5判並製278頁／2300円

これから刑法学の世界に触れてみようと考えている人はもちろん、すでに触れてはみたけれども先に進むだけの興味を覚えていない人、面白くなかったのもう止めようかなと思っている人、あるいは、そもそも刑法学が何をやるものか分からなくて釈然としない人等々を対象とする『はじめての刑法』。

〔1641-3・04〕

吉田敏雄著

## 刑法理論の基礎〔第3版〕

A5判並製484頁／3200円

社会倫理的犯罪概念の視点から、行為無価値・結果無価値不法、客観的責任概念からなる犯罪論体系を展開し、それが、統合予防刑、修復的反作用を整合的に包含できることを論ずる。新たに、正当防衛、正当化緊急避難、免責緊急避難を加えた第3版。

〔1973-1・13〕

五島幸雄著

## 実務に即した刑法総論

A5判並製230頁／2600円

刑法総論の全体像を、分かりやすく、おもしろく、実務に即して解説する。具体例を取り上げて一気に読ませる工夫を凝らし、興味を湧かせることで法的知識の会得を図る。初心者ともども学生に刑法への関心を持たせる格好の教科書！半生を検事で過ごした著者による平易・簡潔な解説は、裁判員にも有益。

〔1865-9・10〕

五島幸雄著

## 実務に即した刑法各論

A5判並製238頁／2600円

刑法各論の全条文を網羅して、主要な犯罪を実務に即して分かりやすく、しかも刑法総論の学習事項とも関連させて解説し、初心者ともども学生に興味深く刑法の全体像を理解させ、法的知識の涵養を図る絶好の書。検事出身の著者による平易・簡潔な文章は、裁判員、実務家にも有益な入門書！

〔1914-4・11〕

下村康正著

## 犯罪論の基本的思想

A5判上製234頁／2000円

刑法の教科書では性質上触れられていないか、あるいは余り詳細に扱われていない種類の犯罪論上の諸問題につき、15章に分けて体系的にまとめられた好著。かなり程度の高い問題も扱われているが、文章は極めて平易であり、読みやすく、刑法を学ぶ人々にとって恰好の参考書となろう。

〔1012-1・60〕

斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明・  
高山佳奈子編著

## 新経済刑法入門〔第3版〕

A 5判上製458頁／3500円

経済刑法では、立法が相次ぎ、処罰の強化と拡大が著しい。本書は財政犯罪・会社犯罪を含む広範な経済刑法の立法と法運用を示し、経済刑法の現状が一目瞭然である。法律系学部、大学院（法科大学院を含む）、公共政策大学院や経済・経営・商学系の大学教科書だけではなく、企業研修等でも活用できる。〔5318-6・20〕

中山研一・斉藤豊治・神山敏雄・  
浅田和茂編著

## 環境刑法概説

A5判上製336頁／3800円

環境刑法の概念や役割、環境刑法の法益論、行政的規制との関係などの総論的な問題を整理するとともにドイツ、フランス、アメリカなどの外国の状況にも比較法的に言及した後、主要には、環境保護に関連する特別法の主要なものについて、各論的な解釈論的検討を行う。〔1626-X・03〕

三原憲三著

## 新版刑法各論

A 5判上製578頁／4000円

最新の重要な判例を多数掲載した最新版。本書では、判例をかなり広範囲にわたって引用している。したがって、本書は大学における講義の教科書として執筆されたものではあるが、他方、刑法演習にも使用することができるように配慮したものである。〔1838-3・09〕

三原憲三・津田重憲・関哲夫編

## 刑法ゼミナール〔総論〕〔第2版〕

A5判並製290頁／2500円

事例で鍛えられた刑法総論の「理論力」を意図した本書は、刑法総論における重要項目について、判例を素材にした具体例を提示し、それに関する判例の流れや対立を整理したうえで解説を施すとともに、主要な参考文献・関連判例を示すことで思索の深まりと広がり配慮した演習本。〔1949-6・12〕

三原憲三・津田重憲・関哲夫編著

## 刑法ゼミナール〔各論〕

A 5判並製290頁／2500円

記憶力よりも思索力の養成を意図した本書は、刑法各論の重要項目88について、まず具体的事例を示すことで、読者が、判例・学説状況の解説、主要参考文献・関連判例を参考にして、混沌とした生の事実から妥当な結論を導き出す法的論理構成を考え抜くことを狙った演習本である。〔1735-5・06〕

小松進・齊藤信宰・鈴木實・本吉邦夫・米澤敏雄著

## 刑事法総合ゼミナール

A5判並製236頁／2000円

この一冊で犯罪（刑事実体法）の発生から捜査・公訴・公判・判決（刑事手続法）までの理論と実務のポイントが分かる。〔1793-5・08〕

橋本裕藏編著

## 判例刑法研究（総論）

活きた刑法理論の獲得に向けて

A5判並製260頁／2500円

「判例は法源である。」この基本認識を前提に最高裁判所判例等指導的判例を素材に各章を〔判示事項〕、〔事実の概要〕、〔訴訟の経緯〕、〔論点〕、〔判旨〕、〔基本事項〕、〔解説と研究〕、〔参考文献〕の8つの柱で構成し複雑難解な刑法理論を簡潔に説いた刑法総則の教科書。〔1577-8・02〕

木村裕三・小林敬和著

## 現代の刑法各論〔改訂第4版〕

A5判並製462頁／3500円

本書は、わかりやすい刑法の本を学生諸君に提供し、刑法各論上の基本的な問題を理解してほしいという意図で上梓したものである。覚えたものは忘れてしまうが、理解すれば忘れることはない。2、3の大学で教科書として使用したところ、幸いにも、「分かりやすい」「面白い」と好評であった。構成要件の図表も親切であり、判例の紹介も適切であるとされた。〔5116-8・14〕

船山泰範著

## 事例で学ぶ刑法各論

A5判並製334頁／2800円

刑法各論を450を超える事例を用いてわかりやすく解説。刑法総論との関係を示しながら刑法の本質を多面的に捉えている。条文から事例がイメージできるだけでなく、ていねいな判例索引からも事例が探しやすい構成になっている。

[1808-6・08]

船山泰範著

## 刑法学講話

A5判上製424頁／3700円

ていねいでわかりやすい講義で定評のある著者が、幅広い知識の蓄積をもとに『刑法とは何か』を語る。図表、文学作品などを多数取り入れ、法律学習者だけでなく刑法に興味を持つ一般読者にも理解してもらえるよう工夫されている。

[1862-8・10]

須之内克彦著

## 刑法概説各論〔第2版〕

A5判上製474頁／3500円

法学部や法科大学院・未修のテキスト用に編成し、判例の豊富な引用とともに総論との有機的連関を強く意識して展開する。各節毎にレジュメを掲げるなど予習・復習の便宜を図りつつも、決して過保護にはならず、受講生や読者自身の主体的な努力を期待して、学習したことが真に身につくよう工夫を施す。

[5109-0・14]

中山研一・浅田和茂・松宮孝明著

## レヴィジョン刑法〔2〕

未遂犯論・罪数論

A5判並製258頁／3300円

レヴィジョン刑法1共犯論に続く第2弾。未遂犯論・罪数論を扱う。未遂犯論を1章、罪数論を2章に分け、それぞれ概説の後に著者3人の討論が続くという構成。日頃研究会等で気心の知れた3世代の関西の刑法学者が、息の合った討論を展開し読者の理解を深める。研究会活動が旺盛な関西ならではの共著。

[1576-X・02]

中山研一・浅田和茂・松宮孝明著

## レヴィジョン刑法〔3〕

構成要件・違法性・責任

A5判並製432頁／4500円

「レヴィジョン」シリーズ完結。犯罪体系論全体に影響を与える諸問題につき、学説史を踏まえつつ、これまでの固定的な理解に囚われない切り口を示す。

[1832-1・09]

上野幸彦・太田茂著

## 刑事法入門〔第2版〕

B5判並製264頁／2200円

重要な判例を織り込みながら、刑事実体法と手続法の全体について基本的・全般的な素養を取得できるよう工夫した、学部生、ロースクール生、若手警察官等のために最適な刑事法入門書。

[5390-2・23]

川端博・前田雅英・伊東研祐・山口厚著

## 徹底討論 刑法理論の展望

A5判上製396頁／3300円

学界をリードする著者達が、気心の知れた研究者同士として率直に各自の問題意識をぶつけ合い、刑法の根底に横たわる重要問題についての徹底的討論を通して現在の理論状況を総括するとともに21世紀における方向性を展望する。本書は、刑法学の在り方を考える際に強烈な学問的刺激を与え続けるであろう。

[1543-3・00]

明治大学法科大学院刑法研究室編

## 法科大学院刑法テキスト〔総論〕

〔補訂版〕

A5判並製202頁／2000円

本書は、法科大学院における刑法の講義のために、日本型ロースクールの方向を見定めた上で刑法スタッフが書き下ろした標準的テキストである。通説・判例ベースで叙述して法学未修者にとって必要不可欠な基礎知識を提供するとともに、自学自習により法的思考力を涵養し応用能力を培うことを目標とする。

[1799-7・08]

明治大学法科大学院刑法研究室編

法科大学院における刑法の「講義」及び「演習」の教材として編まれたもの。実務法曹育成にとって、判例が有する意義は極めて大きい。各講に基本的な最高裁判例を5件精選し、〔事実の概要〕、〔判旨〕又は〔決定要旨〕を掲記。既刊の『法科大学院刑法テキスト』『総論』、『各論』を連動させれば、より効果的である。〔1662-6・04〕

## 法科大学院刑法判例教材

A5判並製210頁／2000円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

法科大学院時代が始まり、さまざまな状況から理論刑法学は重大な岐路に立たされている。本誌は理論刑法学の深化・発展のために多くの研究者に交流の場を提供することを目的としている。

## 理論刑法学の探究①

A5判上製224頁／3000円

〔1803-1・08〕

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 いわゆる「罪刑均衡原則」について—その法哲学的根拠と近時の国際的展開を背景とする—考察—岡上雅美／消極的責任主義の帰趨—わが国における近時の量刑理論の批判的検討—城下裕二／具体的事実の錯誤と法定的符号 上高—高／違法性の意識 松原久利／因果関係論と客観的帰属論 小林憲太郎 〔1837-6・09〕

## 理論刑法学の探究②

A5判上製222頁／3000円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 共犯の一般的成立要件について 豊田兼彦／共謀共同正犯論の現状と課題 島田聡一郎／共謀の射程について 十河太郎／国際刑法における「正犯」概念の形成と意義—ICCにおける組織支配に基づく間接正犯概念の胎動— フィリップ・オステン／国際刑事証拠法 高山佳奈子ほか 〔1877-2・10〕

## 理論刑法学の探究③

A5判上製254頁／3500円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 間接正犯・離隔犯における実行の着手時期 塩見 淳／不能犯 佐藤拓磨／未遂の理論構造と中止未遂 金澤真理／被害者の承諾における三元説の意義について 佐藤陽子／欺罔により得られた法益主体の同意 森永真綱／「三角詐欺」は存在しない 杉本一敏 〔1907-6・11〕

## 理論刑法学の探究④

A5判上製268頁／3500円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 いわゆる過失競合事案における過失認定の在り方について 古川伸彦／過失犯論における実行行為性・子見可能性の問題 曲田統／大規模医療事故と過失犯論 甲斐克則／親族間における保障人の義務の現代的意義 岩間康夫／保障人的地位について 平山幹子／不真正不作為犯の制約根拠としての真正不作為犯 小名木明宏 〔1941-0・12〕

## 理論刑法学の探究⑤

A5判上製274頁／3500円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 責任能力論の到達点となお解決されるべき課題について 安田拓人／刑罰の目的とその現実性 飯島暢／心神喪失者等医療観察法と刑事責任能力判断 緒方あゆみ／詐欺罪における「欺罔」と「財産的損害」をめぐる考察 足立友子／財産上の損害概念の諸相と背任罪の「損害」要件 品田智史／ほか。 〔1984-7・13〕

## 理論刑法学の探究⑥

A5判上製302頁／3800円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

〔論文〕 岡本昌子「自招侵害と正当防衛論」／照沼亮介「過剰防衛と『行為の一体性』について」／大下英希「自救行為と刑法における財産権の保護」／成瀬幸典「文書偽造罪の本質」／今井猛嘉「コンピュータ時代における文書偽造罪の変容」／野澤充「中止犯論の問題点」ほか。 〔5114-4・14〕

## 理論刑法学の探究⑦

A5判上製318頁／4000円

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

## 理論刑法学の探究⑧

A5判上製262頁／3500円

〔論文〕 目的犯と共犯 伊藤亮吉／作為正犯者による犯罪実現過程への不作為による関与について 齊藤彰子／財産犯と立法 宮川基／経済刑法の保護法益について— 制度依存型経済犯罪における制度的法益と個人的法益の関係— 神例康博／保護客体としての情報 石井哉哉ほか。〔5150-2・15〕

川端博・浅田和茂・山口厚・井田良編

## 理論刑法学の探究⑨

A5判上製336頁／4200円

〔論文〕 太田達也「死刑と終身刑」／永田憲史「死刑執行始末書の分析」／本庄武「裁判員制度と死刑の適用基準」／十河太郎「承継的共犯論の現状と課題」／高橋直哉「承継的共犯論の帰趨」／小林憲太郎「共犯関係の解消について」〈書評〉濱田新・末道康之〈外国論文紹介〉品田智史・嘉門優・仲道祐樹。〔5184-7・16〕

佐伯仁志・高橋則夫・只木誠・松宮孝明編

## 刑事法の理論と実務④

A5判上製280頁／4200円

〔作為義務論の課題〕 江見健一「不真正作為の犯の作為義務とその認定」／石井隆「不作為犯に関する実務上の問題」／南川学「不作為犯における弁護活動の留意点」／平山幹子「救助的因果経過の切断について」／鎮目征樹「不作為犯論における実務と理論の距離」ほか。〔5368-1・22〕

佐伯仁志・高橋則夫・只木誠・松宮孝明編

## 刑事法の理論と実務⑤

A5判上製280頁／4200円

〔過失犯論の現在〕 日高義博「刑法学の争点と理論的基軸の意義」／半田靖史「過失犯における結果回避可能性の判断について」／田野尻猛「特殊過失事件における過失の認定について」／上田正和「自然災害による被害と刑事責任」／稲垣悠一「危険創出行為を基軸とした過失競合事例の注意義務の類型化」／松宮孝明「過失犯における近年の理論と実務」ほか。〔5394-0・23〕

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第1巻

刑法学綱要

A5判上製632頁／9000円

大正15年から昭和3年にかけて三分冊で発行された『刑法学綱要』の復刻版。宮本博士の刑法理論体系の原型を示すものであり、「何ノ為メニ社会人生アリヤ」と問い「愛の刑法観」を説く部分などは、その後の著作には表面上姿を消しているが、博士の刑法観を知る上で看過できない点のひとつである。〔1128-4・86〕

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第2巻

刑法學粹

A5判上製906頁／9000円

宮本英脩著『刑法学粹』（第五版・昭和10年）の復刻版。宮本博士の刑法理論には、その時々々の法律制度や規定の相違とか、あるいは社会状態の変化というものを越えて、いつの時代でも、またどのような社会の人々にも訴え受け入れられる法原理や法構造が示されている。〔1026-1・85〕

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第3巻

刑法大綱

A5判上製608頁／9000円

前者『刑法学粹』の改訂までということと昭和7年に出版されその後版を重ねるに至った『刑法大綱総論』と、昭和9年に発行された『刑法大綱各論』とを合わせて一本としたものである。合本にあたり、「類型性」の概念について一般的説明がつけ加えられたほか、他の説明や語句にも修正・補充が加えられている。〔1027-X・84〕

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第4巻

刑法講義

A5判上製234頁／5000円

本書は、宮本博士が京都帝国大学を定年退官した直後の昭和17年7月に謄写版刷りで発行されたものである。博士にとって刑法総論に関する最後の体系書であり、その意味で宮本刑法学の集大成といえるものである。〔1151-9・87〕

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第5巻

刑事訴訟法大綱

A 5 判上製600頁／9000円

宮本博士の『刑事訴訟法大綱』の復刻版。宮本刑事訴訟法理論の全体像を示すものとして重要な著作といえる。特に公訴権の観念やこれを基本とする各種の裁判の意義、また訴訟行為とくに裁判の成立に関する理論などには、みるべきものがある。

[1131-4・86]

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第6巻

刑事法論文集(-)

A 5 判上製474頁／9000円

宮本博士が京都帝国大学奉職後に発表した全論文を体系的に配列して収録。博士の刑事法理論の展開過程を如実に知ることができるとともに、博士の提唱になる「可罰的」評価の語が当初は「加罰的」評価であったことなど、興味ある事実をうかがい知ることができる。

[1203-5・90]

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第7巻

刑事法論文集(-)

A 5 判上製208頁／7000円

宮本博士は、東京帝国大学卒業後検事を経て判事となったが、大正5年、富田山寿教授急逝のあとを承けて京都帝国大学に助教授として迎えられた。本巻には、博士の京大就職前の諸論稿を収録する。いずれも、簡潔ながら、きわめて示唆に富む内容である。

[1282-5・92]

宮本英脩著・鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集第8巻

判例評釈

A 5 判上製446頁／9000円

宮本博士が京都帝国大学に助教授として迎えられた大正5年以降、京都法学会雑誌、法政論叢、法学論叢等に発表された判例評釈を収録する。9年余りにわたる判検事としての実務経験に裏づけられ、かつ論理的にも緻密な判例分析は、今なお新鮮さを失っておらず、われわれに多くの示唆を与えてくれる。

[1249-3・91]

鈴木茂嗣編

## 宮本英脩著作集 補巻

A 5 判上製236頁／7000円

宮本英脩著作集の最終巻。著作集としては異例のことであるが、宮本博士の人柄やその学説等について論じた10編の論稿を収録した。いずれも宮本博士の業績を理解する上で逸することのできない論稿である。

[1372-4・95]

西原春夫著

成文堂選書40

## 刑法の根底にあるもの〔増補版〕

4 6 判上製218頁／2300円

本書は一粒社の企画した「現代法律学の課題」の一環として1979年に出版されたものであった。このたび版權が成文堂に移ったのを機会に、元の論述にどうしても訂正を加えなければならない部分には注をつけ、巻末に「法律学を学ぶ意義」と題する講演の再現を登載し、増補版として出版することとした。

[1621-9・03]

西原春夫著

## 交通事故と信頼の原則

A 5 判上製396頁／3000円

「信頼の原則」に関するドイツと日本の判断を模索して数年を過ぎた著者が、遂に「信頼の原則」の体系化とその理論づけを完成された。社会の動きを的確にとらえ、実務と理論とを架橋しようと思ひ、これに成功した数少ない研究成果であり、交通事故における「信頼の原則」を民事にまで及んで集大成した労作。

[1033-4・69]

西原春夫著

## 犯罪実行行為論

A5判上製382頁／6000円

刑法学における最重要概念の一つである「犯罪実行行為」について、著者の長年にわたる研究を集大成。基礎理論のほか、原因において自由な行為、共犯、間接正犯等に関する諸論稿を含む。このテーマに関する学界の現状を知るうえで不可欠の文献である。巻末に曾根威彦教授による「解題」を付す。

[1462-3・98]

中山研一著  
成文堂選書41

## 刑法の基本思想〔増補版〕

4 6 判上製280頁／2500円

本書は一粒社が企画した叢書「現代法律学の課題」の一冊として1979年に出版されたもので、すでに絶版となった。このたび版權が成文堂に移ったのを機会に、これを再現するとともに、最後に「補論」として刑法学の最近の問題状況について書いた論文を加えて、増補版として出版することにした。〔1624-3・03〕

中山研一著

## 大塚刑法学の検討

A 5 判上製392頁／3000円

本書の内容と構成は、大塚教授の「犯罪論の基本問題」（有斐閣）を素材にして、その内容を客観的に要約したあと、これに必要なコメントをつけるという形で、大塚説の現状をできるだけ正確に理解するための解説をし、その批判、検討をしたものである。〔1025-3・85〕

中山研一著

刑事法研究第二巻

## 刑法改正と保安処分

A 5 判上製232頁／3000円

賛否両論はげしい保安処分の問題については、これまで必ずしも論議がかみあわず、感情論の介入によって冷静な判断が妨げられるおそれも存在した。本書は問題の所在を整理し、全体の見通しを与えることにより今後の論議の為の素材を提供するとともに、これに必要な著者のコメントを加えたものである。〔1228-0・86〕

中山研一著

刑事法研究第六巻

## 刑法諸家の思想と理論

A 5 判上製216頁／4300円

《主な内容》牧野英一の刑法理論／宮本刑法学の一考察／竹田刑法学の特徴と基本思想／植田博士の共犯論について／佐伯博士の共犯論について／中刑法理論と特色／福田刑法学の一考察／吉川刑法学の一考察／藤木教授の刑法学／平場安治「刑法学における私の立場」（紹介）〔1383-X・95〕

中山研一著

刑事法研究第七巻

## ビラ貼りの刑法的規制

A 5 判上製242頁／5000円

本書は電柱その他の工作物にビラやポスターを貼り、立看板などを掲出する行為が警察によって取締られ、刑事責任を科されるといった場面において生ずる論争点を、実際に発生した刑事事件に即して検討したものである。軽犯罪法および屋外広告物条例違反として問題になる場面の刑法的な論点をほぼカバーする。〔1428-3・97〕

中山研一著

刑事法研究第九巻

## 判例変更と遡及処罰

岩手県教組第二次上告審判決を契機に

A 5判上製220頁／4500円

岩手県教組同盟罷業事件の論争点を他の関連する事件とともに分析し、「あり」罪に関する判例変更の経緯にまでさかのぼった上で、「判例変更と遡及処罰」をめぐる問題が出現した経緯と現在の到達点を明らかにするもの。学説の動向についても検討。〔1601-4・03〕

中山研一著

刑事法研究第11巻

## 心神喪失者等医療観察法案の国会審議

法務委員会の質疑の全容

A 5 判上製226頁／3800円

本法による問題点解明のために立法過程の論議をまとめたものである。〔1699-5・05〕

中山研一著

刑事法研究第12巻

## 違法性の錯誤の実体

A 5判上製302頁／5000円

故意説の立場から、これまで「違法性の錯誤」として構成されてきた事案の多くは実際には「構成要件の違法な事実」あるいは「違法性阻却事由の前提となる事実」の錯誤として再構成し得るのではないかという批判的視点で、これまでの判例を整理し、詳しく検討したものである。〔1781-2・08〕

- |   |  |
|---|--|
| <p>中山研一著<br/>刑事法研究第13巻<br/>21世紀の刑事立法と刑事裁判</p> <p>A5判上製274頁／4800円</p>            | <p>第1章「刑法の一部改正について」、第2章「『共謀罪』法案の何が問われているのか」、第3章「公務員の政治活動に対する罰則について」、第4章「戸別訪問罪等の性格と保護法益」、第5章「裁判員制度導入までに確認しておきたいこと」。</p> <p>[1847-5・09]</p>                              |
| <p>中山研一著<br/>刑事法研究第14巻<br/>佐伯・小野博士の「日本法理」の研究</p> <p>A5判上製216頁／4500円</p>         | <p>佐伯博士が戦後の教職追放決定に対して詳しい反駁文を書かれているのを知ったことが契機となって、それまで一種のタブーとして正面から触れられることがなかった、戦前の佐伯博士の「日本法理」の思想と理論を検討したもの。</p> <p>[1909-0・11]</p>                                     |
| <p>大谷實著<br/>刑事法研究第1巻<br/>刑法改正とイギリス刑事法</p> <p>A5判上製224頁／2000円</p>                | <p>本書はイギリス刑事法の現代的課題にかかわる論文数篇を収めわが国の刑事法改正議論および実定法研究に貢献しようとする示唆に富む労作。</p> <p>[1039-3・75]</p>   |
| <p>大谷實著<br/>刑事法研究第2巻<br/>刑事責任論の展望</p> <p>A5判上製230頁／2800円</p>                    | <p>著者が過去数年にわたって発表した論文や集録するもので、責任論に関するものを中心とする。ややもすると学説の対立に関する研究が幅をきかせる傾向がある刑法学において、その対立を克服することを目指す著者の研究の方向性を窺うことができる論文集である。</p> <p>[1040-7・83]</p>                     |
| <p>大谷實著<br/>刑事法研究第3巻<br/>刑法解釈論集 I</p> <p>A5判上製204頁／2800円</p>                    | <p>《主な内容》 刑法を学ぶ視点／刑法の解釈／不作為犯／因果関係の錯誤／違法性／現代の責任論／原因において自由な行為／法定的符号説弁護／事実の錯誤と適系／過失の諸相／着手未遂と実行未遂／間接幫助</p> <p>[1041-5・84]</p>  |
| <p>大谷實著<br/>刑事法研究第5巻<br/>刑事司法の展望</p> <p>A5判上製252頁／5500円</p>                     | <p>著者が過去10年間に発表した刑法、刑事訴訟法、刑事政策に関する講演と論文13篇を収録した論文集。著者の基本的立場を踏まえて、刑事司法の将来を明快に展望した著書として、学生・研究者・実務家にとって有益。</p> <p>[1488-7・98]</p>   |
| <p>大谷實著<br/>刑事責任の基礎〔訂正版〕</p> <p>A5判上製250頁／1500円</p>                             | <p>人格責任主義の立場から、その理論的変遷は、刑法学と科学と法則性が採り入れられた歴史を示すものであって、この延長線にこそ刑法学の歩むべき道があるのではなからうか、ということを中心とし、刑法学の根本に横たわる命題にアプローチする。</p> <p>[1057-1・77]</p>                            |
| <p>川端博著<br/>刑事法研究第六巻<br/>定点観測刑法の判例</p> <p>1996年度～1998年度<br/>A5判上製284頁／6000円</p> | <p>本書は、各年度に公刊された最高裁判例及び下級審判例を、定点観測の手法で著者の立場から一定の論点について年度別に整理し、判例上の位置づけを明らかにする研究書である。本書では、各年度の判例群の検討による「共時的」多様性の追求と検討作業の継続による「通時的」傾向の抽出が試みられている。</p> <p>[1516-6・00]</p> |



川端博著 刑事法研究第七卷	共 犯 論 序 説	本格的な共犯論研究の助走のための覚書である本書は、①二元的人的不法論の共犯論への反映、②「一部実行の全部責任の原則」の個人主義的把握、③共犯における違法性の「相対化」、④「正犯と共犯の区別」における実行行為性の重要性、⑤「身分犯と共犯」における身分犯の特殊性等を追究する。 [1548-4・01]
A5判上製270頁／6000円		
川端博著 刑事法研究第八卷	定点観測 刑法の判例	本書は、1999～2000年度に公開された最高裁判例及び下級審判例を定点観測の手法で著者の立場から一定の論点について年度別に整理し、判例上の位置づけを明らかにする研究書である。各年度の判例群の検討による「共時的」多様性の追求と検討作業の継続による「通時的」傾向の抽出が試みられている。 [1741-X・06]
1999年度～2000年度 A5判上製340頁／7000円		
川端博著 刑事法研究第九卷	事実の錯誤の理論	本書は、刑法における「事実」の錯誤の取扱いに関する基礎的問題を理論的観点から総合的に研究した論稿をまとめ上げたものである。まず故意の実体論と認定論を考察したうえで「事実」のもつ意義を基礎に事実の錯誤の問題性を鋭く指摘し解決策を提示するとともに学説と裁判例を詳細に分析・検討する。 [1774-4・07]
A5判上製258頁／6000円		
川端博著 刑事法研究第十卷	共 犯 の 理 論	本書は、共犯に関する論文等を収録するものであり、著者が「共犯論序説」(刑事法研究第七卷)において提示した萌芽的主張を理論的に深めて発展させたものである。共同正犯、教唆犯および幫助犯(従犯)の諸問題について、判例・通説の立場である二元的人的不法論の見地からの理論的徹底を図っている。 [1812-3・08]
A5判上製214頁／5000円		
川端博著 刑事法研究第十一卷	風 俗 犯 論	風俗犯は、社会の変化と運動してその当罰性に変容が生じる犯罪である。ある時は大目に見られ、ある時は厳しく取締まれ禁圧されることになる。表現の自由や意思決定の根幹にかかわる風俗犯について、制度論の観点から新たな捉え直しを提唱する本書は、これからの風俗犯研究の新たな視点を提供する。 [1852-9・09]
A5判上製214頁／5000円		
川端博著 刑事法研究第十二卷	定点観測 刑法の判例	本書は、2001年度に公開された最高裁判例及び下級審の裁判例を定点観測の手法で著者の立場から一定の論点について整理し、判例上の位置づけを明らかにする研究書である。2001年度の判例群の検討による「共時的」多様性の追求と従前の判例の検討作業の継続による「通時的」傾向の抽出がなされている。 [1913-7・11]
2001年度 A5判上製274頁／6000円		
川端博著 刑事法研究第十三卷	責 任 の 理 論	本書は、刑法における「責任」の概念を明らかにするとともに責任主義の意義と機能を理論的見地から緻密に検討し、その具体的発現形態としての原因において自由な行為などの問題点を考察し、哲学や社会学などの人文・社会科学の見地から総合的に究明すべきことを主張し、制度論に基づく試論を提示する。 [1943-4・12]
A5判上製226頁／6000円		
川端博著 刑事法研究第十四卷	人 格 犯 の 理 論	多義的な「人格」概念を分析・整理した上で、従来の犯罪類型を「人格犯」として捉え直して多層的な観点から総合的に考察する。人格犯の特質を解明し新たな理論的展開を試みる研究書。
A5判上製354頁／7000円		[5111-3・14]

川端博著

刑事法研究第15巻

## 事例思考の実際

刑法における「事例思考」の意義を明らかにし、多くの事例を基礎として問題の所在、その問題をめぐる学説・判例を分析して罪責問題の解決策を示し、「事例思考」の実践例を提示する。

A5判上製392頁／7500円

〔5140-3・15〕

川端博著

刑事法研究第16巻

## 刑法特別講義・講演録

刑法における重要論点について、実際に実施した特別講義をライブ感覚で再現した講義録と、様々な機会に求められるままに分かりやすく情熱をこめて語りかけた講演を再現した講演録。

A5判上製540頁／10000円

〔5168-7・16〕

川端博著

刑事法研究第17巻

## 賄賂罪の理論

社会学者・文化人類学者マルセル・モースの『贈与論』の詳細な検討を通して、「贈与」を基礎にしてみとめられる「事実上の返礼義務」概念を基礎に、賄賂罪の理論的把握を試みる意欲作。

A5判上製370頁／7000円

〔5193-9・16〕

川端博著

刑事法研究第18巻

## 宮城浩藏の人と刑法思想

明治時代初期のわが国の刑法学の第一人者であり、学者および実務法曹として活躍した宮城浩藏の人となりとその思想および刑法理論を明らかにし、その業績を顕彰する。

A5判上製398頁／8000円

〔5234-9・18〕

川端博著

刑事法研究第19巻

## 未遂犯の理論

制約原理としての「因果性と帰属生」が、科学的知見を基礎として、未遂犯の諸局面においてどのように現れるのかに重点を置いて未遂犯の問題点を検討し、未遂犯の理論化を図る。

A5判上製554頁／12000円

〔5270-7・19〕

川端博著

刑事法研究第20巻

## 刑事時間論序説

従来、刑事法学において断片的に考察されてきたに過ぎない時間論について、法律問題に関連する限度で検討し、「刑事時間論」を「制度化された時間」という観点から展開する。

A5判上製432頁／8500円

〔5312-4・20〕

川端博著

刑事法研究第21巻

## 刑事法の問題群 I

「刑法・特別刑法編」「刑事訴訟法編」「刑事政策等編」の三部構成で、「刑事法」に関連する諸論点について考察した論文、判例評釈、各種意見・報告などを領域ごとに整理し纏めた論文集。

A5判上製472頁／9000円

〔5328-5・21〕

川端博著

刑事法研究第22巻

## 刑事法の問題群 II

第 I 巻のつづき。

A5判上製456頁／9000円

〔5329-2・21〕

川端博著

刑事法研究第23巻

## 死因究明の制度設計

A5判上製608頁／13000円

[5398-8・23]

わが国の死因究明制度の現状と問題点を総合的な観点から多角的に分析・検討。死因究明制度の在るべき姿を「制度設計」という観点から考察する。

森下忠著

国際刑法研究第六巻

## 犯罪人引渡法の理論

A 5 判上製260頁／6000円

犯罪人引渡法における相互主義、双方可罰主義、政治犯罪の概念、特定主義、自国民不引渡しの原則、犯罪人引渡しと死刑、犯罪人引渡法における仮逮捕という基本的諸問題につき、第2次大戦後、新たに登場した理論と解決策を学説、条約、立法例、実務の各観点から丹念に検討し、併わせて自説を展開した世界的水準の書 [1314-7・93]

森下忠著

国際刑法研究第八巻

## 犯罪人引渡法の研究

A5判上製328頁／6000円

EU 犯罪人引渡条約、立法例、学説等から得た知見に基づき、伝統的な犯罪人引渡法の伝統的諸原則の修正を提唱したほか、チリの元大統領ピノチエトの引渡事件、北朝鮮による日本人拉致事件等の国際法犯罪につき、国際刑事法学の最新理論を取り入れて時効、恩赦、免責特権等の不適用を主張した注目の書。 [1637-5・04]

森下忠著

国際刑法研究第九巻

## 刑法適用法の理論

A 5 判上製296頁／6000円

わが国で久しく未開拓であった刑法適用法の分野につき、古代ギリシア、ローマから近代に至るまでの歴史的發展の跡をたどり、属地主義、属人主義、保護主義、世界主義について、最近の立法例や国際条約の動向を参考にして各所で新理論を展開した。中でも、世界主義に関する著者の所説は白眉である。 [1702-9・05]

森下忠著

国際刑法研究第十巻

## 国際刑法学の課題

A5判上製298頁／6000円

1998年7月に採択された国際刑事裁判所条約（ローマ規程）における適用法、罪刑法定主義、個人の責任、国際刑法における正当防衛、緊急避難と強制、一事不再理、時効の不適用、ジェ、サイドの罪、人道に対する罪等の基本課題、さらに国際化された国内刑事法廷の問題をわが国で最初に論じた注目の書。 [1745-4・07]

森下忠著

国際刑法研究第11巻

## 国際刑事裁判所の研究

A 5 判上製338頁／6500円

最も重大な国際犯罪を裁くために創設された国際刑事裁判所（ICC）の管轄権、補充性の原則、予審、刑事手続、証拠法則、国際司法共助等にかかる諸規定につき、国際刑事法学の立場から、綿密な分析と論述をした学術書。わが国における国際刑事法学の世界的水準を示すバイオニア的業績である。 [1840-6・09]

森下忠著

国際刑法研究第12巻

## 国際刑法の新しい地平

A 5 判上製300頁／6000円

国際刑事法廷におけるハイブリッド法の誕生、刑事時効をめぐる諸問題、外国における証拠の収集、国際刑事司法共助における特定主義、自国民の犯罪人引渡し、偽装引渡しに関する論述は、理論と実務の両面に貢献するところ多大。EU の犯罪人引渡条約、刑事司法共助条約の紹介は、わが国にとって有益。 [1887-1・11]

森下忠著

国際刑法研究第13巻

## 国際汚職の防止

A 5 判上製330頁／6500円

国際汚職の持続的防止を図る見地から国際汚職の構造を分析し、OECD 条約、欧州評議会の2条約、汎米条約、アフリカ連合条約を仔細に検討し、米法と英法の過酷な制度を批判。日本の企業、商社等が外国と商取引を行うに当たり当該国の法制、司法実務等を研究するための基礎資料を提供する貴重な力作。 [1930-4・12]

森下忠著

国際刑法研究第14巻

## 諸外国の汚職防止法制

国連の汚職防止条約の問題点を鋭く指摘するとともに、アジア、欧州、南米など主要15か国における汚職処罰規定について詳述し、企業の刑事責任問題、汚職の風土と原因、訴追制度について言及する。

A 5 判上製406頁／7800円

(1976-2・13)

森下忠著

国際刑法研究第15巻

## 現代の国際刑事法

集团的自衛権、共謀罪法案、特別捜査手法の導入など、現代の国際刑事法が直面する多くの課題を理論的に検討する。

A 5 判上製326頁／6500円

(5147-2・15)

野村稔著

## 刑法研究 [上巻]

上巻では、主に著者の違法二元論の骨格をなす刑法規範論について論じ、下巻では、刑法上の主要な犯罪につき私見を明らかにし、経済刑法における重要論点にも言及する。

A 5判上製324頁／8000円

(5170-0・16)

野村稔著

## 刑法研究 [下巻]

A 5判上製420頁／8000円

(5171-7・16)

鈴木茂嗣著

## 犯罪論の基本構造

事実認定における実体要件事実と認定要件事実とを区別して論じる必要性を説く二元的犯罪論の立場から、何が犯罪の実体要件事実かを明らかにすることこそが、実体的犯罪論の真の課題であることを鋭く指摘する。

A 5 判上製498頁／9000円

(1966-3・12)

鈴木茂嗣著

## 二元的犯罪論序説 [補訂2版]

著者年来の主張である「二元的犯罪論」の骨子を示そうとするもの。

46判上製132頁／2700円

(5378-0・22)

山口厚ほか編

## 実務と理論の架橋

刑事法学の実践的課題に向けて

実務と理論との対話を促進し、「実務刑法学研究」を継続・発展させることをめざした研究書。

A 5判上製1028頁／24000円

(5384-1・23)

尾崎道明著

## 刑事法の基礎理論

検察官として長年にわたって刑事法の世界、それも理論の応用の世界の最前線で生きてきた経験をもとに、実証的・科学的な方法に基づく一貫した刑事法の基礎理論を展開する意欲作。

A 5 判上製196頁／4000円

(5297-4・20)

明照博章・今村暢好編著

## 川端刑法学の歩み

主客反照性の視角から

A5判上製324頁／6000円

〔5351-3・22〕

小坂亮著

## フランツ・フォン・リストの刑法理論

A5判上製312頁／6500円

〔5344-5・21〕

飯島暢著

## 自由の普遍的保障と哲学的刑法理論

A5判上製274頁／6000円

〔5169-4・16〕

山中敬一著

## 犯罪論の機能と構造

A5判上製260頁／5500円

〔1861-1・10〕

山口厚著

## 犯罪論の基底と展開

A5判上製250頁／5400円

〔5402-2・23〕

関哲夫著

## 刑法解釈の研究

A5判上製340頁／6500円

〔1724-X・06〕

高橋直哉著

## 刑法基礎理論の可能性

A5判上製336頁／6500円

〔5242-4・18〕

高橋則夫著

## 規範論と理論刑法学

A5判上製568頁／10000円

〔5330-8・21〕

第1部 川端刑法学の歩み(概要)、第2部 川端刑法学の顕彰、第3部 川端先生に関する顕彰、第4部 川端刑法学の歩みの意義づけ、第5部 客観的指標としての川端刑法学の歩み。

刑法理論上は否定したはずの特別予防を量刑で考慮し、さらに行刑段階では肯定する通説は一貫しているのか。特別予防論と客観主義犯罪論により構成されるリストの刑法理論を検討する。

自由の普遍的な保障を刑法において貫徹させるという問題意識の下、刑罰論と不法論において伝統的な刑法学の枠組みにとらわれず、法哲学的な知見を可能な限り受容しつつ展開する。

現代社会において規範論的・体系論的に目的合理的な犯罪論はどうあるべきかという基礎視座に立って、刑法規範の行為規範性と制裁規範性の観点から犯罪論の方法論を一般的に論じ、かつ具体的解釈論につき危険判断の構造を軸にあるべき理論を提示する著者の最近の論稿をまとめた論文集。

これまで発表された論文の中から犯罪論に関する主要なものを選び収録したもの。著者の刑法理論体系構築のための試行錯誤の跡を示す貴重な一冊。

刑法学者が関与しなかったとされる法解釈論を考察し、同じく利益衡量的思考方法を探る機能主義刑法学と民法解釈学の利益衡量論とを比較することにより、厳格解釈の要請が支配する刑法解釈の特殊性を検討し、刑法解釈の限界設定の方法論、刑法解釈における論拠選択の恣意性とその克服の方法論を探る。

自由に共通の価値を認める自律した理性的主体たる人格としての諸個人によって構成されている共同体において、刑法はいかなる役割を果たすであろうか、という視点から分析した論文集。

実践的な規範学である理論刑法学と理論的な規範学である規範論の基礎を探究し、「行為規範と制裁規範」という規範論パラダイムから、犯罪論と刑罰論の重要問題を考察する。

甲斐克則著

## 法益論の研究

A5判上製298頁／6000円

〔5400-8・23〕

「責任原理」の研究と並んで、著者の基礎理論研究の2本柱である「法益論」の研究に関する約40年に亘る論文をまとめたもの。

松原芳博著

## 行為主義と刑法理論

A5判上製356頁／7000円

〔5314-8・20〕

外界に対して作用を及ぼし、また行為者自ら選択可能なものである「行為」を刑罰の対象とする行為主義の見地から犯罪の構造を解明し、その要請を刑法解釈論に内在化させることを試みる。

仲道祐樹著

## 行為概念の再定位

犯罪論における行為特定の理論

A 5 判上製256頁／5000円

〔1967-0・13〕

近年、我が国の刑事判例に現れた「複数行為による結果惹起」の問題を契機として、抽象的な行為概念をめぐる議論から「行為の特定方法」に関する現実の問題解決を行うための実践的枠組みを導こうとする画期的試み。

伊藤亮吉著

## 目的犯の研究序説

A5判上製374頁／6500円

〔5194-6・17〕

主観的違法要素をめぐる行為無価値論と結果無価値論の対立点を明確化し、結果無価値論内部における違法観の違いを鮮明にしてきた目的犯の問題に新たな視点から鋭く切り込む論文集。

神山敏雄著

## 不真正不作為犯をめぐる過失犯

A5判上製256頁／5500円

〔5316-2・20〕

不真正不作為犯についての立法の進展が見られず、判例・学説の解釈論に委ねられてきた現状に対し、特に構造の複雑な不真正不作為過失犯について、立法論も踏まえて考察する論文集。

ようしゅうや  
楊 秋野著

## 過失不作為犯の帰属原理

A5判上製322頁／6500円

〔5360-5・22〕

過失犯・不作為犯という両分野に跨がる過失不作為犯を取り上げ、その帰属原理と判断枠組みを明らかにする。

吉岡一男著

## 因果関係と刑事責任

A 5 判上製300頁／6500円

条件関係の択一的競合事例で結果帰責を否定する論稿から、因果関係なしによる客観的帰属の否定と過失処罰の克服、故意犯処罰原則と未必の故意、責任能力、組織の犯罪といった刑事責任の基礎を論じ、謙抑主義や積極的一般予防と量刑、修復的司法、被害者対策など犯罪対応と刑事責任の具体化を扱う論文集。〔1740-1・06〕

曾根威彦著

## 刑法における結果帰属の理論

A5判上製334頁／6500円

〔1956-4・12〕

客観的構成要件において、違法評価の対象をどのように確定するのか。著者の「違法論研究」と連続性を成す本格的研究所。

曾根威彦著

## 刑事違法論の展開

A5判上製338頁／6500円

刑事違法理論史、刑法と憲法及び民法との違法論における関わりを論じたものなど、単に刑法解釈論にとどまらず理論刑法全体にわたる論説も収録する。『刑法における正当化の理論』『刑事違法論の研究』に続く違法論三部作の完結編。

[1982-3・13]

松本圭史著

## 刑法における正当化と結果帰属

A5判上製220頁／4500円

正当化事由をめぐる一連の問題に検討を加え、これを通じて、「結果」と「因果的帰属」に着目する結果帰属論的考察が正当化事由を検討する際の総論的視座の一つとなり得ることを示す。

[5305-6・20]

明照博章著

## 正当防衛権の構造

A5判上製314頁／6500円

違法性阻却事由としての正当防衛における「自然権」と「緊急権」という二つの側面の正当化原理が、正当防衛の成立を解釈する際にどのような形で具体化していくのかについて、種々の視点から詳細な検討を加えて解明に導く意欲作。

[1972-4・13]

明照博章著

## 積極的加害意思とその射程

A5判上製374頁／7000円

正当防衛における「侵害の急迫性」を否定する要件として、昭和52年最高裁判所決定において提示された「積極的加害意思」の概念とその射程の解明に取り組む意欲的論文集。

[5200-4・17]

山本和輝著

## 正当防衛の基礎理論

A5判上製270頁／5500円

正当防衛の積極的な基礎づけが十分に論じられてこなかった現状がもたらす弊害を除去し、正当防衛の限界が問われる事案を検討するための確固たる基盤を提供する。

[5268-4・19]

木崎俊輔著

## 相互闘争状況と正当防衛

理論と実務の交錯

A5判上製384頁／8000円

理論的な妥当性と実務的な必要性の両方に配慮し、判例の意義や相互の關係の適切な理解を前提とする裁判員裁判の要請に応えた事案の処理基準を示そうとする。

[5386-5・23]

津田重憲著

## 正当防衛と緊急救助の基本問題

A5判上製302頁／6000円

わが刑法36条1・2項およびドイツ刑法32条に規定された正当防衛に関する基本的なテーマについて、私見を展開する。また、これまで学界においてほとんど論じられることがなかった「緊急救助」（他人のための正当防衛）についても論及する。

[1938-0・12]

井上宜裕著

## 緊急行為論

A5判上製282頁／5600円

第三者保護をめぐる従来からの緊急避難論が陥っていたジレンマを解消すべく緊急避難の法的性質を再構成した上で、緊急状況における正当化と免責の關係を分析。わが国では十分に論じられてこなかった緊急避難と免責の問題を解明し、一般的期待不可能性による不処罰に消極的な実務に一石を投じる一冊。

[1769-0・07]

齊藤信宰著

## 刑法における違法性の研究

A5判上製244頁／5000円

犯罪は構成要件に該当する違法で有責な行為であると定義づけられている。本書は、この犯罪を構成する三要素のうち、特に、構成要件と違法性の関係はどのように考えるべきであるか、また、両者は厳格に区別しうるのであるということを違法性の実質を中心にして論じたものである。〔1605-7・03〕

齊藤信宰著

## 刑法諸問題の解釈

A5判上製294頁／5800円

行為、故意、違法性、共犯、結果的加重犯といった刑法の重要問題について、解釈の論理一貫性を追究した論文集。

〔5141-0・15〕

振津隆行著

## 刑事不法論の研究

A5判上製314頁／5500円

本書は、著者が二〇年余にわたり研究のテーマとしてきた刑事不法論に関する論文のうち、4篇を取録したものである。そこでは、刑事不法論を巡る学説のうち、逐一論点を挙げ検討を加えた結果、いわば通説的帰結に至ったものや、クリース説の掘り起し、危険概念の検討等により、自説に至る道程が挙示されている。〔1412-7・96〕

振津隆行著

## 刑事不法論の展開

A5判上製214頁／6000円

本書は、前者『刑事不法論の研究』の続編に当たるものではあるが、内容的には古い論文から最近に至るまでの諸論文が収録されており、前半部分の論文等は学会の欠缺を埋めるものであり(第1章、第2章等)、後半部分は比較的新しい論文や新説等をも唱導したものをも含む論文集である。〔1639-1・04〕

振津隆行著

## 刑事不法論の再構成

A5判上製198頁／5000円

結果無価値論の立場から違法論の再構築を試みる意欲的研究書。

〔5157-1・15〕

振津隆行著

## 抽象的危険犯の研究

A5判上製164頁／3500円

抽象的危険犯論につき、これまで未整理だったドイツの諸学説を整理して、批判・検討を加えたうえで、さらにわが国の議論状況を呈示して、私見を展開した。抽象的危険犯論に関する本格的な研究書である。

〔1782-9・07〕

振津隆行著

## 過失犯における主観的正当化要素の理論

A5判上製182頁／4000円

本書は、従来わが国でほとんど論じられてこなかった過失犯においても主観的正当化要素が必要か否か、必要とした場合その内容いかんにつき、もっぱらドイツの判例・学説に依拠して問題の焦点を分析・検討した研究書である。

〔1932-8・12〕

須之内克彦著

## 刑法における被害者の同意

A5判上製300頁／6000円

「同意」という被害者の意思ないし態度が犯罪の成否にいかなる影響を及ぼすかにつき、日・独の議論を通じて、その基本的な論点の検討を行い、さらに、住居侵入、同意殺のような個別犯罪類型やスポーツ傷害の分野などに考察を加えることにより、現代社会において刑法の担うべき役割を改めて問い直す。〔1640-5・04〕



佐藤陽子著

## 被害者の承諾

各論的考察による再構成

A 5 判上製318頁／5800円

刑法における被害者の承諾は、犯罪阻却根拠の相異に基ついて、3つに区別することができる。そして、かかる3つの承諾は、その犯罪論体系上の地位、あるいは成立要件をも異にするものである。本書は、刑法各則の様々な構成要件を詳細に検討することにより、上記三元説の根拠と正当性を導くものである。〔1904-5・11〕

吉田敏雄著

刑法理論の基礎VI

## 被害者の承諾

A 5 判並製182頁／3000円

犯罪論体系上、構成要件が不法に位置づけられる「被害者の承諾」を巡る諸問題を扱う。できる限りドイツ語圏刑法学における当該問題の理論状況を追跡することにより、日本刑法学の理論状況を鮮明にし、日本刑法の各学説の位置価値を明らかにしようとする。〔5260-8・18〕

天田悠著

## 治療行為と刑法

A 5 判上製530頁／12000円

「治療行為」という問題領域に、刑法理論のフィルターをとおして基礎理論的検討を加える。医療にまつわる法的諸問題を解決するための基本的指針を与えようとする研究書。〔5231-8・18〕

林弘正著

## 先端医療と刑事法の交錯

A 5 判上製304頁／6500円

非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)の導入を契機に先端医療に内在する倫理的問題を凝視し、わが国の状況について日本産婦人科学会等の対応を中心に刑事法的視点から考察する。〔5237-0・18〕

竹川俊也著

## 刑事責任能力論

A 5 判上製318頁／7000円

規範的責任論から演繹的に導出された「精神の障害」および弁識・制御能力という従来の枠組みの中の議論は、観念的な色彩が強く、実際の判断場面で機能しないのではないかとの疑念が抱かれる。こうした問題意識から、実践に耐えうる実体要件の構築を目指す。〔5262-2・18〕

浅田和茂著

## 刑事責任能力の研究 下巻

A 5 判上製464頁／8000円

上巻では主としてドイツの刑事責任能力論の展開が扱われた。本巻では、わが国における歴史の一端の検討と著者の責任能力論に続いて、原因において自由な行為、責任能力と精神鑑定、責任と予防の各テーマにつき、ドイツの議論も参照しつつ、責任主義の貫徹という立場から理論的検討がなされている。〔1512-3・99〕

城下裕二著

## 責任と刑罰の現在

A 5 判上製422頁／8000円

責任論・罪数論・量刑論・刑罰論の「現在」を特徴づけるテーマを採り上げ、それに関連する判例および学説に現れた諸見解をめぐって、理論刑法学の視点に基づいた再検証を試みる。〔5293-6・19〕

香川達夫著

## 新 錯 誤 論

A 5 判上製290頁／6000円

刑法における錯謬論に関して、日独の論争が絢爛百花の相を呈するのに対して、英米法制は比較的淡泊であるという現状を踏まえて、錯謬論争の簡素化を模索する。〔5255-4・18〕

林弘正著

## 相当な理由に基づく違法性の錯誤

A 5 判上製356頁／6500円

〔1937-3・12〕

刑法改正事業の成果として改正刑法假案二一条二項に規定され、その後改正刑法草案二一条二項に結実した「相当な理由に基づく違法性の錯誤」という視点から、違法性の錯誤事例における学説と判例の乖離を止揚する。

松原久利著

## 違法性の錯誤と違法性の意識の可能性

A 5 判上製352頁／7000円

〔1726-6・06〕

本書は、責任説の理論的基礎を再確認したうえで、故意・期待可能性・責任能力・罪刑法定主義と違法性の意識の可能性との関係、仮定的判断・事前責任としての違法性の意識の可能性の検討を通じて、違法性の錯誤の問題領域を明確にして、さらに違法性の意識の可能性判断の明確化を目指したものである。

山中敬一著

## 中止未遂の研究

A 5判上製350頁／7000円

〔1550-6・01〕

中止未遂の減免根拠につき、法律説と刑事政策説の犯罪論体系の中での融合を図り、可罰的責任減少説を規範論から根拠づけるとともに、「中止行為」の要件論を展開し、「任意性」の要件論をも新たな視座から分析する中止犯論に関する著書の長年の研究を集大成した本格的論文集。

金澤真理著

## 中止未遂の本質

A 5 判上製278頁／5000円

〔1712-6・06〕

本書は、中止未遂の特別の効果を根拠づける議論と中止未遂の成立範囲を画定する議論とを整理・区分したうえで、ドイツの判例・学説において論点となった諸事例を手がかりとして、比較法的手法を用いて未遂犯の処罰根拠との関連でその理論的構造を明らかにし、中止未遂の成否の基準を得ようとする。

野澤充著

## 中止犯の理論的構造

A 5 判上製558頁／9000円

〔1933-5・12〕

「なぜ未遂犯についてだけ『中止犯』という優遇制度が定められていて、なぜそれが既遂犯を含めた犯罪行為全体に対する制度となっていないのか」という問題に答えることにより、未遂犯と中止犯の理論的な関係構造を明らかにし、それによって混迷する中止犯論に対して、あるべき真の解決策を与える。

中野正剛著

## 未遂犯論の基礎

学理と政策の史的展開

A 5 判上製348頁／7000円

〔5130-4・14〕

明治期に導入されたフランス刑法学の理論状況が、「未遂犯」に対する犯罪化の根拠や刑の量定に関わる議論の中で現れてくることを明らかにする研究書。

関哲夫著

## 中止未遂における点と線

A 5 判上製200頁／4500円

〔5369-8・22〕

学説・実務が構成要件論から決別し、「構成要件による類型的思考法」から「犯罪法律要件論による要件的思考法」への転換を図るべきとの主張を基に纏めた論文集。

原口伸夫著

## 未遂犯論の諸問題

A 5 判上製428頁／6000円

〔5235-6・18〕

実行の着手論、中止未遂論、不能犯論という未遂犯論のひとつひとつの問題について、わが国の学説・判例の現状を正確に描き出し、その解釈・判断基準を提示しようと試みる研究書。

吉田敏雄著 刑法理論の基礎Ⅲ	未遂犯、不能犯及び中止犯の領域について、日本刑法学のみならずドイツ語圏刑法学の学説・判例についても詳述する。刑法を詳しく学びたい人や比較法的に考察したい人のための教科書。
未遂犯と中止犯	
A5判並製236頁／2400円	〔5112-0・14〕
吉田敏雄著 刑法理論の基礎Ⅳ	「刑事法政策」を自由主義、民主主義及び社会連帯主義という視点からいかに進展させるべきかという問題関心から、現今の国の刑事法政策を批判的に考察する。『刑法理論の基礎』第4巻。
懲罰社会と刑法	
A5判並製218頁／2400円	〔5129-8・14〕
吉田敏雄著 刑法理論の基礎Ⅱ	不真正不作為犯の諸問題を、行為形態、構成要件、違法性、責任の順に体系的に論じた後、過失の不真正不作為犯及び共犯をも論ずる包括的著作。内外の重要学説・判例を詳細に検討しているため、刑法を初めて学ぶ方ばかりでなく、本格的に学びたい方にも有益な情報を提供している。
不真正不作為犯の体系と構造	〔1883-3・10〕
A5判並製216頁／2100円	
吉田敏雄著 刑法理論の基礎Ⅴ	日本の刑法学の発展に大きな影響を与えたドイツ語圏刑法学の現在に至る進展状況を追跡し、犯罪論体系の最後を飾る「責任」の領域を扱う。『刑法理論の基礎』第5巻。
責任概念と責任要素	
A5判並製284頁／3500円	〔5177-9・16〕
岩間康夫著	欠陥製造物の使用により消費者等の市民に被害が生じた場合の当該製造物の製造者の犯罪を理由とする法的責任がどこまで認められるかを、製造者等の製品回収義務の根拠と限界の問題を中心に、従来の刑法理論との整合性を念頭に置きつつ検討する。
製造物責任と不作為犯論	〔1860-4・10〕
A5判上製216頁／4500円	
榎本桃也著	結果的加重犯にまつわる諸問題を総合的に扱う。近年の日独における判例・文献を渉猟し、これらについて検討するとともに、刑法の基礎理論に基づいた解釈論によってこそ、それぞれの問題領域に整合的な帰結をもたらされるということを再確認する。
結果的加重犯論の再検討	〔1916-8・11〕
A5判上製366頁／6500円	
甲斐克則著	本書は、実質的責任原理の観点から過失犯論を再構成しようとする本格的な研究書である。とりわけ人間存在の本質に根差した責任原理の基礎づけから過失責任の意味を問い直し、具体的予見可能性の判断構造、「認識ある過失」と「認識なき過失」の区別、過失犯の共同正犯等の問題に理論的メスを入れている。
責任原理と過失犯論〔増補版〕	〔5277-6・19〕
A5判上製272頁／4200円	
松宮孝明著	刑法の創造的な発展は、様々な問題を体系化することで初めて可能となる。本書は、グローバルに進行する刑事立法の時代に立法批判の視点を提示し、刑法解釈と刑事立法における犯罪体系の意義を再構築するものである。同時に、随所に挟まれたコラムによって、読者は楽しみながら刑法を学ぶことができる。
刑事立法と犯罪体系	〔1613-8・03〕
A5判上製328頁／5000円	

松宮孝明著

## 刑事過失論の研究(補正版)

A5判上製400頁／5500円

ドイツをモデルとした過失犯論の変遷過程を追い、「許された危険論」と「信頼の原則」のドイツ実務における展開を概観し、次に「注意能力」や「予見可能性」の概念を手掛りにして過失責任の基礎を探る。最後に基礎理論の応用部分として、「管理・監督責任」の展開の影響を受けて、火災責任を主として検討する。〔1667-7・04〕

米田泰邦著

刑事法研究第四巻

## 管理監督過失処罰

A 5 判上製264頁／6000円

『可罰の評価』や『機能的刑法』などで一貫して追求してきた手続的可罰評価に及ぶ非犯罪化を、過失犯の基本に触れる組織体モデルの動的過失犯論と信頼・分業の原則を提唱し、見逃された最高裁判例も発掘して、抑制の乏しい日本の管理監督過失処罰の場に移し、国際水準の謙抑的刑罰運用の実現を目指した著者の管理監督過失処罰限界論を集約した類例の乏しい実践的な理論書。〔1927-4・11〕

半田祐司著

## 不法問題としての過失犯論

A 5 判上製220頁／4500円

結果無価値論と行為無価値論の対立場面が具体的に生じた過失犯論に注目して、初期の過失理論からの変遷を追った論考である。旧來の見解では専ら責任に位置づけられていた過失が違法領域で展開されるに至った理論的経緯のなかで、「許された危険」の理論が果たした役割を重視した労作。〔1825-3・09〕

西田典之著

## 共犯理論の展開

A 5 判上製452頁／6300円

刑法学の様々な論点と関連し、刑法における「暗黒の章」とも称されてきた共犯論において、因果的共犯論と制限従属性の概念を機軸に一貫した理論を「展開」した書。必要なテーマについて、判例や学説の動きが付記されたことで、現在までの判例・研究の進展も見取ることができる。〔1896-3・10〕

西田典之著

## 新版 共犯と身分

A5判上製368頁／6000円

大変好評を得た、昭和57年に公刊した『共犯と身分』を軸に、他に執筆した論文を取録して、迷路といわれる共犯論の中であって、とりわけ解決困難とされてきた共犯と身分の問題について、刑法65条の合理性自体に批判の目を向けるという新しい視点から根本的検討を加えた注目の書。〔1597-2・03〕

外木央晃著

## 共犯の基礎理論

A5判上製424頁／8500円

ドイツ刑法学から得られた知見をわが国の刑法学の脈絡に引き直して、共犯論上の諸問題に検討を加え、妥当な解決のための理論的基礎を提示する。共犯の本質と構造を明らかにする論文集。〔5259-2・18〕

曲田統著

## 共犯の本質と可罰性

A5判上製280頁／5500円

第1部では、共同正犯の本質における共同意思主体説の妥当性を展開し、第2部では、教唆犯と従犯の本質的な相異に向きあい、それぞれの特性に応じた取扱いをすべきことを主張する。〔5289-9・19〕

阿部力也著

## 共同正犯の構造

A5判上製260頁／5500円

共同正犯の「正犯性」を「共同正犯の構造」から闡明にし、まさに正犯であるという点から共同正犯を特徴づけている「一部行為の全部責任」の原則を説明することを目的とする論文集。〔5385-8・23〕

香川達夫著

## 身分概念と身分犯

A5判上製258頁／5200円

〔5113-7・14〕

第1章「身分概念への反省」、第2章「身分概念と継続性の要否」、第3章「身分犯と二個の宿題」、第4章「免責事由としての親族」の構成で、身分概念の検討を試みる。

十河太郎著

## 身分犯の共犯

A5判上製372頁／6500円

〔1834-5・09〕

身分者の身分が非身分者に連带的に作用する場合と個別的作用する場合との区別基準を明らかにし刑法65条の1項と2項の関係を研究した著者渾身の論文集。

豊田兼彦著

## 共犯の処罰根拠と客観的帰属

A5判上製206頁／4000円

〔1826-0・09〕

共犯の処罰根拠論を踏まえた上で必要的共犯等の共犯の個別問題の検討に入り、さらに客観的帰属論を共犯論に応用して共犯の新たな理論枠組みの構築を目指す。本書は、従来の因果主義的な共犯論に対する問題提起の書であり、客観的帰属論の意義について共犯論を通じて考えてみるという試みでもある。

内海朋子著

## 過失共同正犯について

A5判上製296頁／6500円

〔1988-5・13〕

従来の過失共同正犯に関する議論について、概念的な成立可能性と処罰の妥当性とを切り分けて考察し、共同正犯における一部実行全部責任の帰責形態根拠を共同行為における特殊な危険に求めて、過失犯におけるその導入可能性を検討した意欲作。

香川達夫著

## 自手犯と共同正犯

A5判上製218頁／4500円

〔1952-6・12〕

最高裁平成13年10月25日決定から始まって、さらに、偽証罪に関する昭和9年の大審院判決におよび、それらとの関連で自手犯と共同正犯の成否・課題を追究する。

市川啓著

## 間接正犯と謀議

A5判上製240頁／5000円

〔5327-8・21〕

正犯論に深く関わる間接正犯および謀議に関する研究書。第一部では間接正犯論を、第二部では謀議と重罪合意罪を、第三部では大逆罪における謀議をテーマとする。

小島秀夫著

## 幫助犯の規範構造と処罰根拠

A5判上製268頁／4500円

〔5137-3・15〕

幫助犯の構造や処罰根拠、その可罰性の限界について、規範論・故意論の観点から探究する。法益保護と法治国家的原理から真の問題を明確化し、論理の一貫した結論を提示する。

小早川義則著

## 共謀罪とコンスピラシー

A5判上製594頁／8000円

〔1807-9・08〕

話題の「共謀罪」の原型はいゆる東京裁判で東条英機元首相らA級戦犯を断罪するために活用された英米法に特有のコンスピラシーであるが、その後の学界レベルでの研究は不十分である。本書はわが国で初めてその理解がすこぶる困難なコンスピラシー法の全容を体系的に明らかにした必見の基本書である。

林弘正著

## 改正刑法假案成立過程の研究

A5判上製548頁／7000円

本書は、昭和初年度におけるわが国の刑法改正事業についての現行法研究者による法制史的知見をも加味した本格的論文集であり刑法改正論議の必読の書である。貴重な初出の資料に基づく実証的手法により改正刑法假案成立過程を分析するとともに姦通罪および常習犯について検討するモノグラフィーである。 [1632-4・03]

立石二六著

## 刑法解釈学の諸問題

A 5 判上製338頁／6000円

著者40年に及ぶ刑法解釈学の論文の中から総論・各論重要テーマを選んで論文集として刊行。著者が継続発展させた学説からの正統な主張、判例に対する鋭い批判が生彩を放っている。精緻な論理展開・端正な文体は若い研究者の参考になろう。著者の体系書『刑法総論』との比較も興味深い。 [1953-3・12]

山本雅子著

## 実質的犯罪論の考察

A5判上製290頁／5500円

本書の基本たる草野説はその基本思想が牧野説・小野説の中間に位置づけられる見解であり、顕著な主張は「共謀共同正犯論」にある。刑法理論の変革期ともいわれる現今、伝統的思考に今一度目を向けてみることで、理論の突然変異を避け、事物自然の論理性を追及すべく思索された基本書である。 [1764-5・07]

曾根威彦著

## 現代社会と刑法

A5判上製324頁／6500円

現代社会に生起する様々な法的事象・問題について、刑法理論の見地から考察を加えたもの。 [5101-4・13]

石堂功卓著

## 現代社会と刑事法学

A5判上製248頁／5000円

刑事法学は、理論的な美を追求するものではなく実践に鍛えられつつ発展する現実的な学問である。現代社会の健全な刑事司法の発展には、判例と学説とが常に相却不離の関係で基本原理とその実践との調和を図る必要がある。それを旨として、21世紀における刑事法学のあり方を問う啓蒙書（尚志録）である。 [1643-X・04]

園田寿著

## 情報社会と刑法

A 5 判上製190頁／3800円

猛烈な速度で進展する情報社会と古典的な刑法との間に生じたひずみ。刑法が想定しなかった新たな犯罪現象。本書は、とすれば処罰の必要性に目を奪われ、拡張的な刑法解釈がなされがちな実務の傾向に対して、罪刑法定主義を堅持する立場から、あるべき刑事法的規制の方向を示す先駆的研究である。 [1890-1・11]

松澤伸ほか著

## 裁判員裁判と刑法

A5判並製136頁／2000円

裁判員制度時代における刑法解釈および刑法適用のあり方、市民に求められる刑法の知識や考え方について、学界における最先端の研究成果を踏まえて、一般読者を対象に解説する入門書。 [5238-7・18]

丸山雅夫著

南山大学学術叢書

## 刑法の論点と解釈

A5判上製298頁／6000円

刑法総論と刑法各論の解釈論に関する12編をまとめたもの。著者の考え方が明確に示される。 [5133-5・14]

名和鐵郎著

## 現代刑法の理論と課題

二元的結果無価値論の提唱

A5判上製356頁／7000円

〔5164-9・15〕

刑法の思想と理論における対立を総括し、二元的結果無価値論という独自の立場から、現代刑法における重要な諸問題について理論的に検討する。

青木陽介著

## 包括一罪の研究

A5判上製380頁／7500円

〔5340-7・21〕

包括一罪の現状認識を踏まえ、成立要件につき理論的な検討を行う。序章 問題の所在、第1章 包括一罪の基本的な枠組み、第2章 最高裁平成22年決定の検討、第3章 最高裁平成26年決定の検討、第4章 混合的包括一罪の成否、第5章 かすがい現象の問題。

野村健太郎著

## 量刑の思考枠組み

A5判上製218頁／4000円

〔5319-3・20〕

刑事裁判で有罪とされた被告人に言い渡すべき刑を決める手続（量刑）について、刑法学（刑法解釈学）の見地から、一定の思考枠組みを示そうとする。

十河隼人著

## 量刑の基礎理論

A5判上製856頁／17000円

〔5367-4・22〕

量刑における「行為責任の原則」を刑法理論の見地から徹底的に再考し、理論的裏づけを有すると同時に実務の説明又は建設的提案を提供しうる量刑の基礎理論を体系的に提示する。

伊東研祐著

## 環境刑法研究序説

A5判上製246頁／3700円

〔1611-1・03〕

自然環境の保護という優れて現代的な社会問題において刑法が果たす機能は如何なるものたるべきか、規範形成機能を有させるべきではないか、という問題提起に始まり、生態系中心主義に基づく法益の構成・行政従属性を放棄した環境刑法の構築、更には、国家機関処罰の可能性等を説く筆者の諸論稿の集成。

今村暢好著

## 行政刑法論序説

A5判上製290頁／6000円

〔5296-7・20〕

刑法はどこまで行政法理論に従属すべきか。行政刑法における刑法理論を構築するにあたり、刑法の原則と交錯する行政法理論を取り上げ、その特殊性をどこまで考慮すべきかを解明する。

小谷利恵著

## 行政刑法

罰則と処分法則

A5判上製332頁／6000円

〔5325-4・21〕

行政法規上の「罰則」は、いつ生まれたのか。なぜ、刑が多用されるのか。これまで明らかにされてこなかった「罰則」の成立と変遷を整理し、民主主義の時代において検討する。

樋口亮介・深町晋也編著

## 性犯罪規定の比較法研究

A5判上製1072頁／15000円

〔5315-5・20〕

世界の個別の法域担当者による日本法への示唆を追加すると共に、全体の解題及び法圏ごとの解題を付して読者の便宜を図る。性犯罪規定の改正が行われることを見越した共同研究の成果。

伊東研祐著

## 組織体刑事責任論

A 5 判上製200頁／4200円

企業組織（法人）の刑事責任を両罰規定解釈論を通じて理論化しようとした企業組織体責任論に惹かれ、その最終的な自然人個人関連性を克服して「組織体刑事責任論」を展開しようと重ねた思索の記録。前者『環境刑法研究序説』と併せ、著者の理論刑法学にとっての「失われた20年」の意味を確認する。〔1954-0・12〕

岡野光雄著

## 交通事犯と刑事責任

A 5判上製282頁／4700円

「道路交通法違反の諸問題」と「道路交通法と刑法との交錯」から構成されている。刑法の一般理論を重視する立場から道路交通犯罪を総合的に論じた研究書。学説・判例にも詳細に論及しており、実務にとっても示唆に富む有益な書。〔1748-5・07〕

川本哲郎著

## 新版 交通犯罪対策の研究

A 5判上製298頁／6000円

危険運転致死傷罪をはじめとする自動車運転致死傷行為為処罰法の解釈、交通犯罪者・交通犯罪被害者に関連する諸問題等を検討。国民的関心の高い交通犯罪対策の在り方を追究する研究書。〔5313-1・20〕

甲斐克則著

海事刑法研究第一巻

## 海上交通犯罪の研究

A 5判上製298頁／3500円

海洋国の日本ではこれまで多数の海難事故が発生したが、刑法的観点からこれを本格的に研究した書はなかった。本書は、船舶の衝突・転覆を中心とした海上交通事故について実態分析をし、過失犯理論の観点から検討を加え、艦船覆没・破壊罪について危険犯論の観点から検討を加えた初の本格的な研究書である。〔1566-2・01〕

林弘正著

## 横領罪と背任罪の連関性

改正刑法假案の視座

A 5判上製260頁／5200円

本書は、横領罪と背任罪の連関性についての実証的研究である。明治15年刑法及び明治40年刑法は、大陸法系をも視野に制定された。刑法改正事業は、改正刑法假案を作成し刑法全面改正を志向する昭和49年改正刑法草案に至り頓挫した。〔5363-6・22〕

上寫一高著

## 背任罪理解の再構成

A 5判上製308頁／5000円

第一編と第二編は従来議論の乏しかった背任罪の本質・背任罪の主観的要件である凶利加害目的に関して理論的考察を試み、第三編では、実務上特に重要である商法上の特別背任罪の適用について、どの様な点が問題となりうるかを判例を中心に検討したもの。〔1458-5・97〕

関哲夫著

## 不正融資における借手の刑事責任

事実的対向犯説の提唱

A 5 判上製194頁／4500円

不正融資における借手の刑事責任、特に、(特別)背任罪の共同正犯の成否について、事実的対向犯説を維持したまま、統合して再構成しようとする研究書。〔5233-2・18〕

佐竹宏章著

## 詐欺罪と財産損害

A 5 判上製284頁／6000円

近時の詐欺罪に関する最高裁判例への疑問を手がかりに、詐欺罪の法制史的検討を踏まえた知見を基礎に、詐欺罪における構成要件の結果の意義及び判断方法を定式化する。〔5298-1・20〕



松宮孝明著

## 誤振込みと財産犯

A 5 判上製270頁／5500円

[5403-9・23]

「誤振込み」をめぐる議論の混乱を整理し、その背後にある財産罪の本質を明らかにして、「誤振込み」問題の解決策を示そうとするもの。

大塚雄祐著

## 毀棄罪における効用侵害の内実

A 5 判上製244頁／5000円

[5333-9・21]

法益の要保護性の観点から毀棄罪における「損壊」等の概念について再検討を行い、毀棄罪の的確な処罰範囲を明らかにしようとする。

関哲夫著

## 住居侵入罪の研究

A 5 判上製386頁／7000円

本書は、住居侵入罪の保護法益に関して、行為の客体に応じて保護法益を個別化し多元化する「多元的アプローチによる多元的保護法益論」を展開し、従来の学説に新たな視点を導入する意欲的な書である。この見解の基礎には、法益概念そして機能主義的法益概念の諸相に関する著者独自の分析が潜在している。[1359-7・95]

関哲夫著

## 続・住居侵入罪の研究

A 5 判上製268頁／5000円

住居侵入罪の保護法益に関する多元的保護法益論の立場から、一元説、特に「純化された許諾権の住居権説」の批判に緻密に反論するとともに、従来充分に検討されてこなかった圍繞地、承諾意思の問題等の個別問題に関する学説・判例状況を精密に分析することによって、通説・判例に新たな視点を導入した書。[1559-X・01]

関哲夫著

## 続々・住居侵入罪の研究

A 5 判上製280頁／5000円

國學院大學法学会叢書1

立川自衛隊宿舍立入り事件・亀有マンション立入り事件で問題となった集合住宅における敷地部分・建物共用部分への立入りと住居侵入罪について、侵入領域、看守性、居住者・管理者の意思関係を主な問題軸にして、学説・判例の状況を整理・検討し、私見の立場から両事件の判例を批判的に考察した書。[1940-3・12]

武田誠著

## 放火罪の研究

A 5 判上製172頁／5000円

放火罪は公共危険犯であり、そのうち一〇八条、一〇九条一項は抽象的危険犯、一〇九条二項、一一〇条は具体的危険犯である、という判例・通説の解釈を分析したうえで、その解釈に対して疑問を提起し、更に「放火罪は個人の生命・身体に対する具体的危険犯」と捉えるべきである、という問題提起をする。[1553-0・01]

えんとう  
関冬著

## 賄賂規制と刑事法理論

A 5 判上製234頁／5000円

[5324-7・21]

時代の遷移とともに様相を変化させている賄賂行為について、中国と日本を両国の賄賂罪の比較研究を中心として、賄賂罪に関して、現代における刑事的規制の在り方を考究する。

甲斐克則著

## 企業犯罪と刑事コンプライアンス

「企業刑法」構築に向けて

A 5 判上製408頁／8500円

[5246-2・18]

「企業犯罪の理論」「企業のコンプライアンス・プログラムと刑事規制」といった企業犯罪と刑事コンプライアンスの関係の研究に重点を置き、「企業刑法」の構築を目指す研究書。

神山敏雄著

経済犯罪の研究第二巻

## 独禁法犯罪の研究

A5判上製350頁／7000円

経済犯罪論の観点から独禁法の全ての犯罪行為・秩序違反行為とサクションを体系的に分析・検討した上で、摘発事件を通して入札談合罪及びその他のカルテル犯罪の本質と問題点を深く掘り下げて理論的に解明し、刑罰万能主義を排してその総合的・機能的対策を展開する我が国初の本格的な研究書  
〔1589-1・02〕

越知保見著

## 独禁法事件・経済犯罪の立証と手続的保障

日米欧の比較と民事・行政・刑事分野の横断的研究

A 5 判上製562頁／6500円

独禁法事件を中心に、違法行為に対するサクションを行う場合の事実認定・立証、執行システムと手続的保障の問題を欧米との比較を踏まえ、民事・行政・刑事分野を横断的に論じる。企業の危機管理実務に携わる専門家必携の書。  
〔2630-2・13〕

孫文著

## 中国の犯罪体系

A 5 判上製218頁／5000円

中華民国時代以来の中国の各時代の刑法総則の構成および犯罪論体系に関する議論の考察を通じて、中国の犯罪体系をめぐる諸問題を解決するための示唆を得ることを目的とする。  
〔5287-5・19〕

末道康之著

## フランス刑法の現状と欧州刑法の展望

A 5 判上製412頁／6000円

本書はフランス刑法解釈論上の諸問題及び欧州刑法の動向と展望に焦点をあてて検討した比較刑法研究書である。HIV感染、胎児性傷害、不作為犯論、尊厳死法制、共犯論、再犯者処遇などを取り上げフランス刑法理論学の現状を検討した上で、欧州統合と欧州刑法の動向と展望について詳細に検討している。  
〔1928-1・12〕

安藤泰子著

## 個人責任と国家責任

A 5 判上製304頁／6000円

幾多の挫折を余儀なくされながらもその法理念を連綿と継受させている歴史上最も深刻かつ重大とされる侵略犯罪について、その展開の歴史的経緯及び2010年6月に国際刑事裁判所規定に関する検討会議で明示された本罪の構成要件に刑法的視点から精緻な検討を加える最新の国際刑法の研究書。  
〔1934-2・12〕

安藤泰子著

## 刑罰権の淵源

A 5 判上製680頁／14000円

国際刑法における国家とは異なる刑罰権概念の存在を実証的・多角的に論証し、また、国際刑法における罪刑法定主義の位置付けについても国内刑法におけるそれと比較し検討する。  
〔5248-6・18〕

安藤泰子著

## 刑法の分化史

A 5 判上製800頁／17000円

主だった古代・中世国家社会で行われていた古法まで遡り、刑法の原初形態を明らかにすることによって、今世紀の国際刑法に至るその分化現象の連続性と刑法の同質性を歴史学上の先験科学に拠りながら検証する。  
〔5395-7・23〕

安藤泰子著

## 公訴権と二元的刑罰権論

A 5 判上製400頁／8000円

明治期における治罪法を起点として展開された社会公訴権と、その後には台頭することとなった国家公訴権に関する考察を行い、国際刑法における刑罰権の行使形態について国家刑罰権と国際刑罰権の二元的刑罰権論を首唱し、同法に生じている諸問題を法理論上解決する。  
〔5317-9・20〕

岡本洋一著

熊本大学法学会叢書14

## 近代国家と組織犯罪

A 5 判上製294頁／5000円

〔5211-7・17〕

19世紀ドイツと近代日本における刑事法規制の構造という歴史的視点から「近代国家と組織犯罪」との関連関係、「近代国家における組織犯罪」が意味するものを明らかにする研究書。

城祐一郎著

## 現代国際刑事法

国内刑事法との協働を中心として

A 5 判並製528頁／4500円

〔5236-3・18〕

国際公法上の刑事に関する部分と国内刑事法とがリンクする問題に重点を置いて解説する。国際刑事事件捜査の実務、法科大学院での講義、企業の危機管理等に有益な情報を提供する書。

比嘉康光著

## ドイツ少年刑法の研究

A 5 判上製282頁／5300円

〔1854-3・10〕

第1章から第3章は、主として少年裁判所法(少年刑法)の改正を扱い、第4章から第6章は、少年事件において重要な役割を果たす少年審判補助の活動を扱い、第7章から第9章は、少年刑法の中核をなす教育思想・教育処分について、第10章から第12章は、ドイツ少年行刑の新しいあり方について紹介。

張 凌著

## 日中比較組織犯罪論

A 5 判上製344頁／6500円

〔1633-2・04〕

本書は、今日世界的に深刻な問題となっている組織犯罪を黒社会犯罪、資金洗浄罪、邪教犯罪、テロ組織犯罪などを素材に分析する。中国の組織犯罪論について、日本法との比較を通じ、包括的な情報と分析を提供するとともに、世界各国の組織犯罪に関する理論状況及び立法動向を紹介する有益な研究書。

西原春夫編

## 危険犯と危険概念

通算第十回日中刑事法学会討論会報告書

A 5 判並製274頁／3000円

〔1704-5・05〕

中国吉林大學では危険犯と危険概念をテーマに日本、中国双方の報告と、さらに討論の要約を掲載したもの。

西田典之編

## 責任論とカード犯罪

日中刑事法シンポジウム報告書

A 5 判並製182頁／1800円

〔1787-4・07〕

刑法における「責任」概念について 馮軍／日本刑法における責任の概念 西田典之／故意・錯誤論 佐伯仁志／事実の錯誤の分類について 劉明祥／違法性の認識 陳興良／違法性の意識 金光旭／カード犯罪 今井猛嘉／支払い用カード犯罪の現状、立法対策と研究課題 張明楷

西田典之編

## 環境犯罪と証券犯罪

日中刑事法シンポジウム報告書

A 5 判並製200頁／2000円

〔1853-6・09〕

2009年10月、中国北京において「環境犯罪と証券犯罪」をテーマとして開催された日中刑事法シンポジウムにおける中国側・日本側の報告と質疑応答の要約を収録。「日本刑事手続法の最近の動向について」と題した講演も収録。

椎橋隆幸・西田典之編

## 変動する21世紀において共有される刑事法の課題

A 5 判並製218頁／2000円

〔1931-1・11〕

2011年10月、中央大学において開催。日中刑事法研究者の積極的な参加により実現した第II期日中刑事法シンポジウム第3回大会の記録。今大会は、①作為義務、②正当防衛、③被害者の承諾、④組織犯罪をテーマとしている。

<p>山口厚・甲斐克則編</p> <p>21世紀日中刑事法の重要課題</p> <p>日中刑事法シンポジウム報告書</p> <p>A5判並製242頁／2500円</p>	<p>甲斐克則「正犯と共犯の区別」／劉明祥「中国特有の犯罪関与体系について」／只木誠「罪数論・競合論」／王政勛「罪数論体系の再構築」／橋爪隆「危険運転致死傷罪・自動車運転過失致死傷罪」／梁根林「中国刑法における危険運転罪」／張明楷「事後強盗罪に関する諸問題」</p> <p>[5115-1・14]</p>
<p>山口厚・甲斐克則編</p> <p>日中刑事法の基礎理論と先端問題</p> <p>日中刑事法シンポジウム報告書</p> <p>A5判並製240頁／2500円</p>	<p>第1セッション「量刑論」、第2セッション「中止犯」、第3セッション「医療と刑法」、第4セッション「企業犯罪」。日中の刑事法研究者、実務家によるシンポジウムの記録。</p> <p>[5174-8・16]</p>
<p>甲斐克則編</p> <p>日中刑法総論・各論の先端課題</p> <p>日中刑事法シンポジウム報告書</p> <p>A5判並製294頁／3000円</p>	<p>「因果関係理論と実務問題研究」「正当防衛の理論と実務問題研究」「性犯罪の理論と実務問題研究」「詐欺罪の理論と実務問題研究」を取り扱う。日中の刑事法研究者によるシンポジウムの記録。</p> <p>[5247-9・18]</p>
<p>甲斐克則編</p> <p>刑法の重要課題をめぐる日中比較法の実践</p> <p>日中刑事法シンポジウム報告書</p> <p>A5判並製222頁／2500円</p>	<p>日中刑事法シンポジウムの記録。「責任能力」「賄賂罪」「サイバー犯罪」「横領罪」をめぐる比較法の実践の4つのテーマについて理論的・実践的観点から活発な議論を展開する。</p> <p>[5299-8・20]</p>
<p>齊藤豊治・松宮孝明・高山佳奈子編著</p> <p>日中経済刑法の最新動向</p> <p>A5判並製362頁／7000円</p>	<p>中国の刑事法研究者らと実施してきた共同研究をまとめたもの。「第1部 社会の構造的変化と法学の発展」「第2部 悪質商法、詐欺罪と経済刑法」「第3部 刑法に基づく食品安全の保護」「第4部 証券犯罪」「第5部 金融犯罪」。</p> <p>[5301-8・20]</p>
<p>佐伯仁志・金光旭編</p> <p>アジア法叢書30</p> <p>日中経済刑法の比較研究</p> <p>A5判上製294頁／3300円</p>	<p>2009年から2011年までの3年間にわたり「日中経済刑法の比較研究」と題して行われた日中共同研究の成果をまとめたものである。経済犯罪の制裁手段と手続、不法収益の剥奪、証券犯罪、預かり金の規制、マネーロンダリングの規制、知的財産権の刑罰的保護、賄賂罪、環境犯罪から構成されている。</p> <p>[1908-3・11]</p>
<p>甲斐克則・劉建利編訳</p> <p>アジア法叢書31</p> <p>中華人民共和国刑法</p> <p>A5判上製220頁／3800円</p>	<p>本書は、1997年の大改正で誕生した中華人民共和国の現行刑法典およびその後の10次にわたり小改正された条文(2011年8月段階)を日本語に全訳し、しかも後者を前者の中に組み入れて配列し、さらに1997年刑法典の成立過程、それ以後の立法解釈および改正の経緯に関する論文を収めたものである。</p> <p>[1921-2・11]</p>
<p>上田寛・上野達彦共著</p> <p>未完の刑法</p> <p>ソビエト刑法とは何であったのか</p> <p>A5判上製326頁／6300円</p>	<p>ソビエト刑法とは何であったのか、その研究者は何を考えていたのか——本書を構成する諸論文は、「それぞれの時期のソビエト刑法のアクチュアルな課題とその格闘の試みとして、それぞれの検討の内容だけでなく、むしろその『はしがき』をこそ、読んでいただきたいのである。」(本書「あとがき」より)</p> <p>[1792-8・08]</p>

上田寛・上野達彦著

# 白夜の刑法

ソビエト刑法とその周辺

A5判上製366頁/8000円

〔5219-6・17〕

田口守一・松澤伸・今井猛嘉・細田孝一・池辺吉博・甲斐克則著

## 刑法は企業活動に介入すべきか

A5判並製144頁/2000円

〔1859-8・10〕

アルトゥール・カウフマン著

上田健二監訳

## 転換期の刑法哲学〔第2版〕

A5判上製410頁/8000円

ソビエト刑法自体の諸側面の検討に加えて、これに先行した帝政ロシアの刑法思想に関わる検討ならびに1990年代に始まる刑法の非ソビエト化ないし「伝統」への回帰のプロセスを追う。

企業の刑事責任は時代の課題であるとの視点から、企業刑法の可能性、法人の刑事責任と制裁制度、課徴金制度とリーニエンシー制度、コンプライアンス・プログラムとその刑事責任論における意義などを研究者と実務家が分かりやすく講じた、早大法学部公開講座の記録。

本書第2版では、1993年に刊行された初版の収録論文のうち五編が、著者が主として名誉教授就任後に刊行した法哲学に関する刑法上の重要論文と取り替えられている。改編は、1997年に刊行されている、「寛容の原理」の確立を意図した『法哲学』第二版から読み取れる重要性の順序に従っている。

ドイツ刑法総論の代表的教科書の翻訳である。総勢39名による長年におたる作業の結実であり、ドイツ刑法学のみならず、ドイツ刑法学と密接な関係にあるわが国の刑法学を研究するうえで必要不可欠な文献である。

A5判上製820頁/9000円

〔1496-8・99〕

クラウス・ロクシン著/吉田宣之訳

## 正犯の本質と行為支配

A5判上製1120頁/25000円

〔5399-5・23〕

松宮孝明編訳

## ギュンター・ヤコブス著作集〔第1巻〕

犯罪論の基礎

A5判上製292頁/6000円

Claus Roxin, Täterschaft und Tatherrschaft, 10. Auflage の全訳。正犯論の抱える全ての現在の問題とその解決だけではなく、将来への道筋さえも示す名著。

独特の客観的帰属論や刑罰論、さらには「市民刑法」(Bürgerstrafrecht)と「敵味方刑法」(Feindstrafrecht)を対比させる思考方法で著名な、ギュンター・ヤコブス教授の著作集の第1巻。主として刑法ドクマーティクに関する、とりわけ犯罪論に関する代表的な著作を収録。

〔5132-8・14〕

松宮孝明編訳

## ギュンター・ヤコブス著作集〔第2巻〕

刑法と刑罰の機能

A5判上製150頁/3000円

ギュンター・ヤコブス教授の、主として刑法と刑罰の機能に関する論稿を、とりわけ「法益保護の早期化」や「法益論」、「市民刑法と敵味方刑法の対比」をテーマとするものを収録する。

〔5303-2・20〕

クヌート・アメルング編著/山中敬一監訳

## 組織内犯罪と個人の刑事責任

A5判上製304頁/5800円

ドイツ刑法学においても、国家・企業等の組織の構成員の犯罪に対する個人の刑事責任の問題については、壁際狙撃兵事件における命令者の刑事責任、皮革スプレー事件における取締役の責任などを通じて理論的考察が深められた最新のトピックであるが、本書は、その現在の理論水準を示す論文集の翻訳である。

〔1600-6・02〕

川端博・安部哲夫監訳

## ドイツ刑事法学の展望

大所高所からの視点

A 5 判並製204頁／2800円

今日のドイツ刑事法学、犯罪学、司法精神医学、行刑学等の領域において主導的立場にある研究者・実務家が、そこにおいて生じた新たな動きと将来への展望とを見据えた上で、我が国における今後の刑事法と刑事政策の改革に対する示唆を投げかけようとする珠玉の論文11編の邦訳。  
〔1843-7・09〕

金尚均＝ヘニング・ローゼナウ編著

日独シンポジウム

## 刑罰論と刑罰正義

日本・ドイツ 刑事法に関する対話

A 5 判上製302頁／6000円

2009年9月にドイツ・アウプスブルク大学において開催されたシンポジウム。  
第1部 刑事手続における諸問題／第2部 刑法上の諸問題。  
〔1945-8・12〕

ヴォルフガング・フリッシュ・浅田和茂・岡上雅美編著

## 量刑法の基本問題

量刑理論と量刑実務との対話

A5判上製300頁／5000円

日独の研究者および実務家が量刑法の基本問題につき集中的に検討したシンポジウムの記録。量刑法の基礎理論から量刑判断の構造さらに訴訟上の問題まで、量刑法の全般にわたって量刑理論と量刑実務の対話を図った。裁判員制度・参審制度の量刑問題を視野に入れ、日独における量刑法発展の基礎を提供する。  
〔1925-0・12〕

A. アッシュワース・J. ホーダー著  
同志社大学イギリス刑事法研究会訳

## イギリス刑法の原理

A5判上製466頁／9500円

Andrew Ashworth & Jeremy Horder, *Principles of Criminal Law 7th ed.* (Oxford U.P., 2013) の翻訳。イギリス刑法の全体像を把握することができる。  
〔5322-3・21〕

アンドレアス・フォン・ハーシュ著  
松澤伸訳

## デザート・モデルの量刑論

A5判上製190頁／4000円

Andreas von Hirsch, *Deserved Criminal Sentences*, 2017の全訳。現代量刑論の一つの頂点を示すもの。  
〔5335-3・21〕

金日秀・徐輔鶴著  
斉藤豊治・松宮孝明監訳

## 韓国刑法総論

A5判上製706頁／15000円

韓国刑法について深い学識に裏打ちされた理論的解説を展開する金日秀・徐輔鶴著『刑法総論〔第12版〕』の翻訳。韓国刑法学の今日の姿を明らかにする。  
〔5292-9・19〕

陳興良著  
西原春夫監訳

## 中国刑法学の新展開

A5判上製608頁／12000円

旧ソ連刑法理論から日独刑法理論への転換を中心的テーマとした、現代中国を代表する刑法学者である北京大学法学院陳興良教授による中国刑法理論の発展の歴史を描き出した書籍の和訳。  
〔5288-2・20〕

劉憲權著  
松宮孝明監訳

## 金融犯罪刑法学原理

金融犯罪に対する中国刑法学の挑戦

A5判上製788頁／15000円

中国における経済刑法分野の第一人者である劉憲權教授の著作集『金融犯罪刑法学原理』の訳。  
〔5337-7・21〕